brother

本書をよくお読みになって製品をご利用ください。

# ユーザーズガイド
## －ネットワーク　操作編－



### 困ったときは

本製品の動作がおかしいとき、
故障かな？と思ったときなどは、
右記の手順で原因をお調べください。

**1** ネットワーク設定について困ったときは

第10章
困ったときは（トラブル対処方法）

**2** ブラザーのサポートサイトにアクセスして、最新の情報を調べる

http://solutions.brother.co.jp/

サポート ブラザー　検索

オンラインユーザー登録をお勧めします。

ブラザーマイポータル

ブラザーマイポータル会員専用サイト

ご登録いただくと、製品をより快適にご使用いただくための情報をいち早くお届けします。

オンラインユーザー登録 ▶ https://myportal.brother.co.jp/

Version A JPN

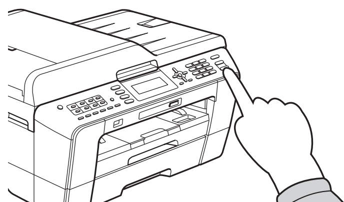
# 目　次

# やりたいこと目次

## 操作パネルを使ってネットワークの設定をする

操作パネルのボタンを使用して、ネットワーク上で本製品を使用するための設定ができます。

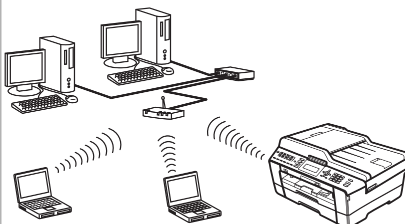
P.5-2



## 無線 LAN を使う

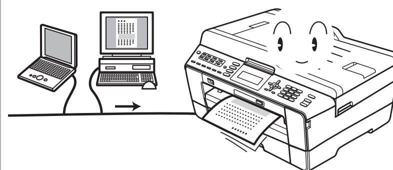
**LAN** ケーブルを使用しないで、無線でネットワークに接続できます。

P.3-2



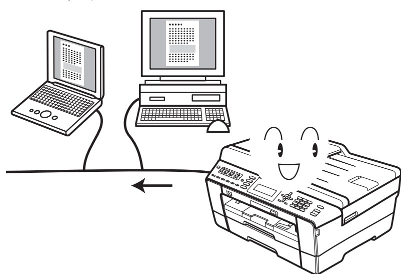
## ネットワークプリンターとして使う

本製品をネットワーク環境で使用します。ネットワーク上の複数のパソコンから印刷できます。



## ネットワークスキャナーとして使う

本製品をネットワーク上で共有できるスキャナーとして利用できます。P.9-2

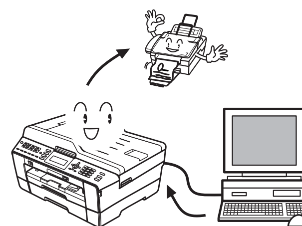


## ネットワーク PC-FAX を使う

パソコン上のアプリケーションで作成したファイルを印刷せずに送信できます。P.9-6

ネットワーク PC-FAX 受信機能（Windows® のみ）については、下記をご覧ください。

⇒ユーザーズガイド パソコン活用編「パソコンでファクスを受信する」



## ネットワークリモートセットアップ

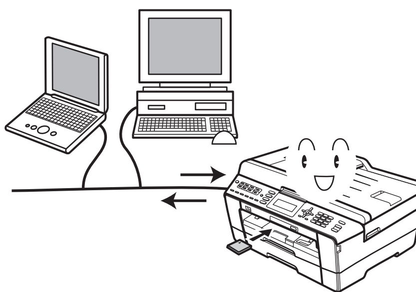
本製品にネットワーク経由でアクセスして、各種設定を変更できます。P.9-8

## BRAdmin Light を使って本製品を管理する

付属のソフトウェア **BRAdmin Light** を使ってアクセスし、管理や設定をすることができます。

P.2-2

## ネットワークでメディアを利用する［ネットワークメディアカードアクセス］



ネットワークで接続された複数のパソコンから、本製品にセットしたメモリーカードや USB フラッシュメモリーなどのメディアにアクセスできます。

詳しくは、下記をご覧ください。

Windows® の場合

⇒ユーザーズガイド パソコン活用編「パソコンからメモリーカードまたは USB フラッシュメモリーを使う」－「ネットワーク経由でメモリーカードまたは USB フラッシュメモリーにアクセスする」

Macintosh の場合

⇒ユーザーズガイド パソコン活用編「Macintosh からメモリーカードまたは USB フラッシュメモリーを使う」－「ネットワーク経由でメモリーカードまたは USB フラッシュメモリーにアクセスする」

# 第 1 章
# はじめに

# 第 1 章 はじめに

## 本書の見かた

本文中では、マークおよび商標について、次のように表記しています。

### マークについて

| | |
|---|---|
| (注意マーク) | 本製品をお使いになるにあたって、注意していただきたいことがらを説明しています。 |
| メモ | 本製品の操作手順に関する補足情報を説明しています。 |

### 本製品の呼称について

本書では、MFC-J6510DW/J6710CDW のことを「液晶ディスプレーモデル」、画面上に表示されたボタンやテンキーを直接押して操作するタッチパネル機能を備えている MFC-J6910CDW のことを「タッチパネルモデル」と記載しています。

### イラストについて

外観イラストは MFC-J6710CDW を代表で使用しています。
操作パネルのボタンのイラストは、液晶ディスプレーモデルでは MFC-J6710CDW を、タッチパネルモデルでは MFC-J6910CDW を使用しています。

### 編集ならびに出版における通告

本マニュアルならびに本製品の仕様は予告なく変更されることがあります。
ブラザー工業株式会社は、本書に掲載された仕様ならびに資料を予告なしに変更する権利を有します。また提示されている資料に依拠したため生じた損害（間接的損害を含む）に対しては、出版物に含まれる誤植その他の誤りを含め、一切の責任を負いません。

# ネットワークの概要

本製品のネットワークインターフェースを利用して LAN または WAN に接続し、ネットワーク上のパソコンから本製品で原稿のスキャンや印刷ができます。
本製品は、IEEE802.11b/g/n 無線ネットワークに対応し、無線認証およびセキュリティーを使用したインフラストラクチャ通信またはアドホック通信で動作します。
付属のソフトウェア BRAdmin Light を使用して、ネットワークインターフェースの設定ができます。
本書は、本製品をネットワーク上で使用するために必要な設定方法について説明しています。

## 機能

| 機能 | Windows® 2000/XP/<br>Windows Vista®/<br>Windows® 7 | Windows Server® 2003/<br>2003 x64 Edition | Windows Server® 2008/<br>2008 R2 | Mac OS X 10.4.11 ～<br>10.6.x |
|---|---|---|---|---|
| ネットワークプリンター | ○ | ○*1 | ○ | ○ |
| ネットワークスキャン<br>⇒ユーザーズガイド パソコン活用編「スキャナー」 | ○ | – | – | ○ |
| ネットワーク PC-FAX 送信<br>⇒ユーザーズガイド パソコン活用編「PC-FAX」 | ○ | – | – | ○ |
| ネットワーク PC-FAX 受信<br>⇒ユーザーズガイド パソコン活用編「PC-FAX」 | ○ | – | – | – |
| ネットワークメディアカードアクセス | ○ | – | – | ○ |
| 管理ユーティリティー BRAdmin Light<br>⇒「BRAdmin Light で設定する」P.2-2 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 管理ユーティリティー BRAdmin Professional<br>⇒「その他の管理ユーティリティーで設定する」P.2-5 | ○ | ○ | ○ | – |
| 管理ユーティリティーウェブブラウザー（Web Based Management）<br>⇒「ウェブブラウザーで管理する」P.6-2 | ○ | – | – | ○ |
| ネットワークリモートセットアップ<br>⇒ユーザーズガイド パソコン活用編「リモートセットアップ」 | ○ | – | – | ○ |
| ステータスモニター<br>⇒ユーザーズガイド パソコン活用編「便利な使い方」 | ○ | – | – | ○ |
| Vertical Paring<br>⇒ユーザーズガイド ネットワーク知識編「Vertical Paring を使用する（Windows® 7 のみ）」 | ○*2 | – | – | – |

*1 Windows Server® 2003 R2/2003 R2 x64 Edition も含みます。
*2 Windows® 7 のみ

# その他のネットワーク機能

## インターネットファクス（MFC-J6710CDW/J6910CDW のみ）

インターネットファクスは、インターネット回線を使用してファクスを送受信する機能です。
⇒「インターネットファクス機能を使う (MFC-J6710CDW/J6910CDW のみ )」P.7-2

## セキュリティー

本製品は、最新のネットワークセキュリティーと暗号化プロトコルに対応しています。
⇒ 「セキュリティー機能を使う」P.8-2

## セキュリティ機能ロック 2.0

ウェブブラウザーを使用して、ユーザーごとにできる機能を制限することができます。
⇒「セキュリティ機能ロック 2.0」P.6-5

# 無線 LAN 機器使用の際のご注意

本製品は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。本製品は、家庭環境で使用することを目的としていますが、本製品がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。本書に従って正しい取り扱いをしてください。




無線電波の使用可能距離は、最大 70m です。本製品の設置場所や周囲の環境、また使用する機器の種類により、使用可能距離や通信速度は異なります。

# 第 2 章
# ネットワークを設定する

# 第 2 章 ネットワークを設定する

ネットワークを設定するには、次の方法があります。

## 操作パネルから設定する

本製品のネットワーク設定を操作パネルからネットワークメニューを使用して設定できます。

⇒「操作パネルで設定する」P.5-2

## BRAdmin Light で設定する

BRAdmin Light は、ネットワークに接続された本製品の初期設定をするユーティリティーソフトです。ネットワーク上の本製品の検索やステータス表示、IP アドレスなどのネットワークの基本設定が行えます。




- TCP/IP ネットワークで接続された本製品を自動的に検索し、IP アドレスなどのネットワーク設定を変更できるので、ネットワーク管理が簡単に行えるようになります。
- BRAdmin Light は、Windows® 2000/XP/Windows Vista®、Windows® 7、Windows Server® 2003/2008 および Mac OS X 10.4.11 以降に対応しています。
- さらに高度なプリンター管理を必要とする場合は、BRAdmin Professional（Windows® のみ）をご利用ください。BRAdmin Professional は、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター http://solutions.brother.co.jp/）からダウンロードしてご使用ください。



アンチウィルスソフトのファイアウォール機能が設定されている場合、BRAdmin Light の「稼働中のデバイスの検索」機能が利用できないことがあります。利用する場合は、一時的にファイアウォール機能を無効にしてください。

### BRAdmin Light をインストールする

#### Windows® の場合

あらかじめ、BRAdmin Light をインストールする必要があります。次の手順でインストールを行ってください。




起動しているアプリケーションがある場合は、終了させてからインストールを始めてください




付属のドライバー＆ソフトウェア CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

トップメニュー画面が表示されます。




［ネットワークユーティリティ］をクリックします。




［BRAdmin Light］をクリックします。

画面の指示に従って、インストールします。

### Macintosh の場合

プリンタードライバーをインストールすると BRAdmin Light も自動的にインストールされます。すでにプリンタードライバーをインストールしている場合は、再度インストールする必要はありません。

## IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを設定する



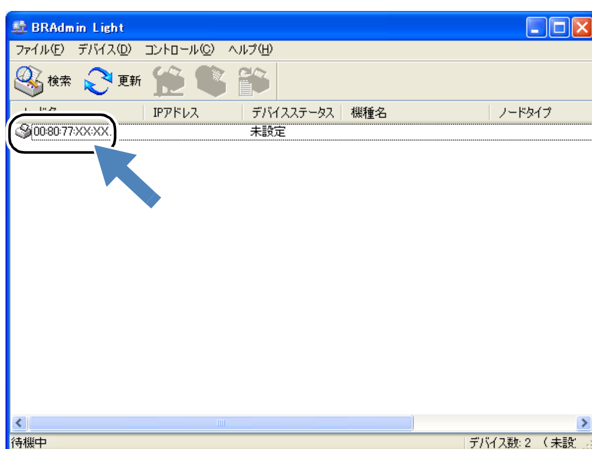

- 最新の BRAdmin Light はサポートサイト（ブラザーソリューションセンター http://solutions.brother.co.jp/）からダウンロードできます。
- さらに高度なプリンター管理を必要とされる場合は、BRAdmin Professional（Windows® のみ）をご利用ください。
  BRAdmin Professional はサポートサイト（ブラザーソリューションセンター http://solutions.brother.co.jp/）からダウンロードできます。
- BRAdmin Light を操作するパソコンで、ファイアウォールを有効にしている場合は、BRAdmin Light の「稼動中のデバイスの検索」機能が利用できません。利用する場合は、一時的にファイアウォールを無効に設定してください。
- BRAdmin Light で表示される本製品のお買い上げ時ノード名は、有線 LAN の場合は［BRNxxxxxxxxxxxx］、無線 LAN の場合は［BRWxxxxxxxxxxxx］となっています。（「xxxxxxxxxxxx」は MAC アドレス（イーサネットアドレス）の 12 桁です。）

**1** （Windows® の場合）
［スタート］メニューから［すべてのプログラム（プログラム）］－［Brother］－［BRAdmin Light］－［BRAdmin Light］の順にクリックします。

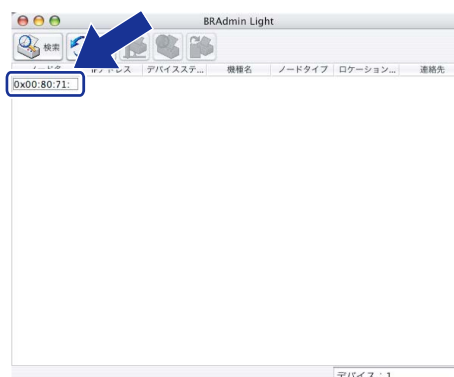
（Macintosh の場合）
［Macintosh HD］－［ライブラリ］－［Printers］－［Brother］－［Utilities］の［BRAdmin Light.jar］をダブルクリックします。

BRAdmin Light が新しいデバイスを自動的に検索します。

**2** 新しいデバイスをダブルクリックします。



Windows®



Macintosh



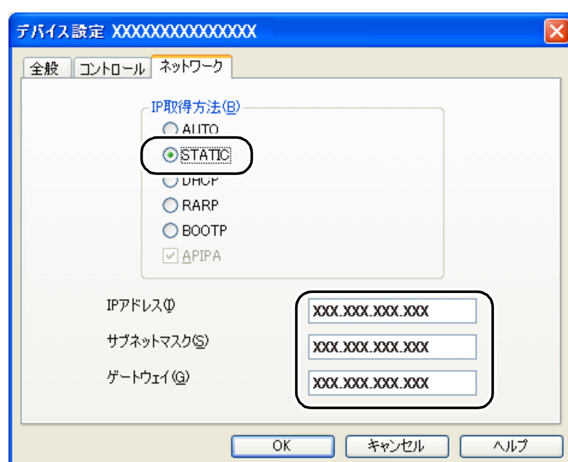
- ネットワークインターフェイスがすでに設定されている場合や IP アドレスの自動設定機能により IP アドレスが割り当て済みの場合には、デバイスステータスに［未設定］とは表示されません。その場合は、設定を変更せずに本製品を利用することをお勧めします。
- 本製品に現在設定されているノード名や MAC アドレスを調べる場合は、「ネットワーク設定リスト」を印刷してください。
  ⇒「ネットワーク設定リストの出力」P.5-13
  ノード名や MAC アドレスは、操作パネルからも確認できます。
  ⇒「操作パネルで設定する」P.5-2



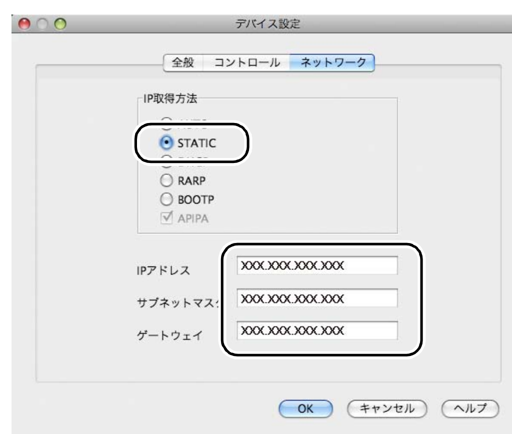
［ネットワーク］タブをクリックします。



［STATIC］を選択して、［IP アドレス］、［サブネットマスク］、［ゲートウェイ］を入力します。




Windows®




Macintosh



［OK］をクリックします。

本製品に IP アドレスが正しく設定されると、ウィンドウの左側にノード名およびプリンター名が表示されます。

# その他の管理ユーティリティーで設定する

本製品では、BRAdmin Lignt 以外にも次のような管理ユーティリティーを使って、ネットワークの設定を変更できます。

## ウェブブラウザー（Web Based Management）

HTTP（ハイパーテキスト転送プロトコル）を使用してネットワークに接続されている本製品の管理ができます。パソコンにインストールされている標準ウェブブラウザーを使用して、ネットワーク上の本製品のステータス情報を取得し、本製品およびネットワーク設定を変更することができます。

⇒「ウェブブラウザーで管理する」P.6-2

## BRAdmin Professional（Windows® のみ）

BRAdmin Professional は、ネットワークに接続されている本製品の管理をするためのユーティリティーです。Windows® システムが稼動するパソコンからネットワーク上の本製品の検索、状態の閲覧、ネットワーク設定の変更ができます。詳しい情報とダウンロードについては、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター http://solutions.brother.co.jp/）をご覧ください。




- 最新の BRAdmin Professional はサポートサイト（ブラザーソリューションセンター http://solutions.brother.co.jp/）からダウンロードできます。
- BRAdmin Professional を操作するパソコンで、ファイアウォールを有効にしている場合は、BRAdmin Professional の「稼動中のデバイスの検索」機能が利用できません。利用する場合は、一時的にファイアウォールを無効に設定してください。
- BRAdmin Professional で表示される本製品のお買い上げ時ノード名は、有線 LAN の場合は［BRNxxxxxxxxxxxx］、無線 LAN の場合は［BRWxxxxxxxxxxxx］となっています。（「xxxxxxxxxxxx」は MAC アドレス（イーサネットアドレス）の 12 桁です。）

# 第 3 章

# 無線 LAN を設定する

# 第 3 章 無線 LAN を設定する

## 概要

本製品を無線 LAN に接続して使用する場合は、別冊の「かんたん設置ガイド」をご覧になり、ブラザーインストーラーから USB ケーブルを使用して無線 LAN を自動設定する方法をお勧めします。本製品をお使いの無線 LAN に簡単に接続することができます。

より詳しい無線 LAN 設定については、この章をご覧ください。TCP/IP の設定については、
⇒「BRAdmin Light で設定する」P.2-2 をご覧ください。

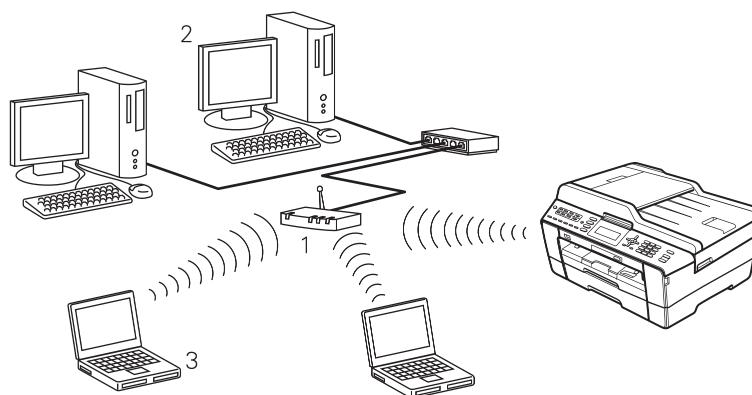


- 本製品を無線 LAN アクセスポイント（または無線 LAN 対応のパソコン）の近くに設置してください。
- 本製品の近くに、微弱な電波を発する電気製品（特に電子レンジやデジタルコードレス電話）を置かないでください。
- 本製品と無線 LAN アクセスポイントの間に、金属、アルミサッシ、鉄筋コンクリート壁があると、接続しにくくなる場合があります。
- 環境によっては、有線 LAN 接続や USB 接続と比べて、通信速度が劣る場合があります。写真などの大きなデータを印刷する場合は、有線 LAN または USB 接続で印刷することをお勧めします。
- 本製品は有線 LAN と無線 LAN の両方で使用できますが、同時に使用することはできません。どちらか一方を選択する必要があります。
- 無線 LAN 設定を行うには、お使いの無線 LAN アクセスポイントに設定されている SSID（ネットワーク名）とネットワークキーを調べておく必要があります。

# ネットワーク環境を確認する

## ネットワーク上の無線LANアクセスポイントとパソコンが接続されている場合（インフラストラクチャ通信）

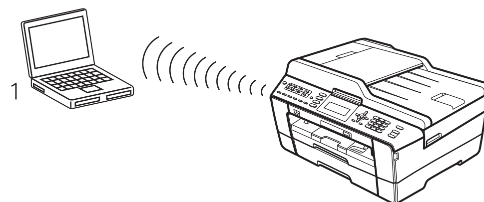
**（推奨：本ガイドでは、インフラストラクチャ通信による設定について説明しています。）**
インフラストラクチャ通信のネットワークでは、ネットワークの中心に無線 LAN アクセスポイントが設置され、有線のネットワークへ橋渡しをするほかにゲートウェイとしても機能します。本製品をインフラストラクチャモードに設定している場合は、すべての印刷ジョブを無線 LAN アクセスポイントを経由して受け取ります。




1　無線 LAN アクセスポイント
2　有線 LAN で無線 LAN アクセスポイントに接続されているパソコン
3　無線 LAN で無線 LAN アクセスポイントに接続されているパソコン

## ネットワーク上に無線 LAN アクセスポイントがなく、無線通信可能なパソコンが接続されている場合（アドホック通信）

アドホック通信のネットワークでは、無線 LAN アクセスポイントが存在しません。それぞれの無線機器は個別に直接通信します。本製品をアドホックモードに設定している場合は、印刷データを送信するパソコンからすべての印刷を直接受け取ります。




1　無線 LAN 対応のパソコン




- アドホック通信は、機器間のみで通信を行います。セキュリティーレベルが低いため、インターネットをご利用の場合は、インフラストラクチャ通信を行うことをお勧めします。
- アドホック通信を行うための設定は、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター http://solutions.brother.co.jp/）の「よくあるご質問（Q&A）」をご覧ください。

# 無線 LAN 設定の方法を選ぶ

本製品の無線 LAN 設定をする場合は、次の 4 つの方法があります。

- 本製品に付属の CD-ROM に収録されているブラザーインストーラーを使用する（推奨）
- 無線 LAN アクセスポイントの簡単設定（WPS/AOSS$^{TM}$）を使用する
- 本製品の操作パネルから手動で無線 LAN 設定をする
- WPS の PIN コード入力方式を使用する

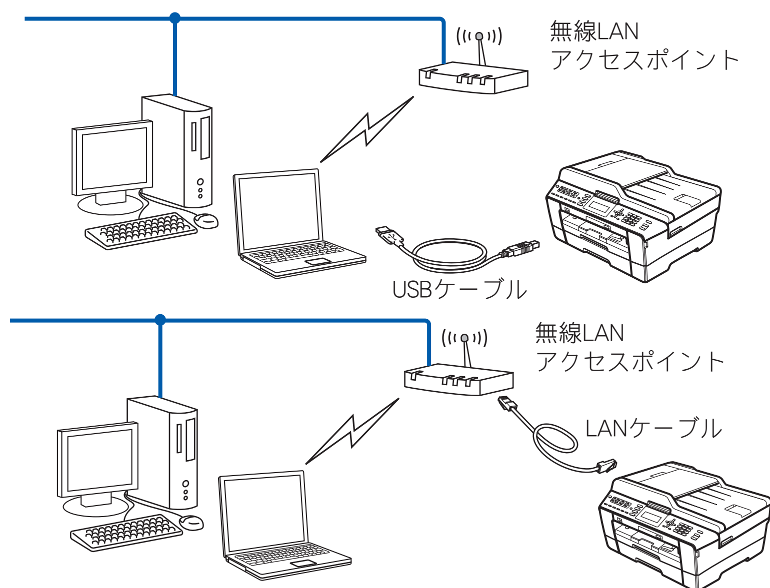
設定手順はご使用のネットワーク環境によって異なります。

## ブラザーインストーラーを使用する（インフラストラクチャ通信のみ）（推奨）

本製品に付属のドライバー＆ソフトウェア CD-ROM に収録されているブラザーインストーラーを使用して、本製品の無線 LAN 設定をすることができます。このインストーラーを使用すると、画面の指示に従って操作するだけで本製品を無線 LAN に簡単に接続できます。設定を始める前にお使いの無線 LAN 環境を確認してください。また、使用するパソコンは、無線 LAN アクセスポイントに無線 LAN、または有線 LAN で接続されており、ネットワークに接続できる状態になっていることを確認してください。
⇒「ブラザーインストーラーを使用する」P.3-7

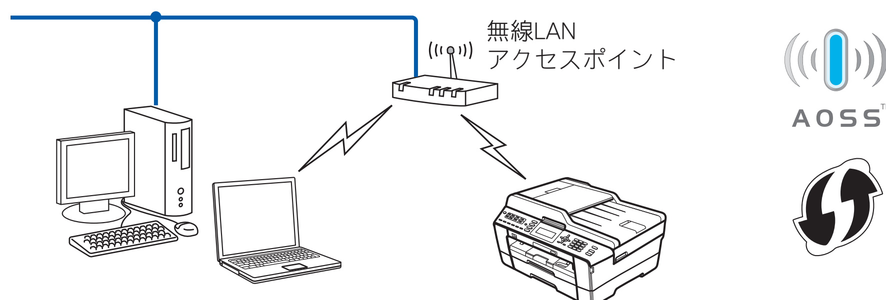
### ●ケーブルを使用して手動で無線 LAN 設定をする

パソコンと本製品を一時的に USB ケーブルで接続する（推奨）か、無線 LAN アクセスポイントと本製品を一時的に LAN ケーブルで接続して、本製品の無線 LAN 設定を行います。接続したパソコンから本製品を遠隔操作することができます。



**●無線 LAN アクセスポイントの簡単設定（WPS/AOSS™）を使用する**

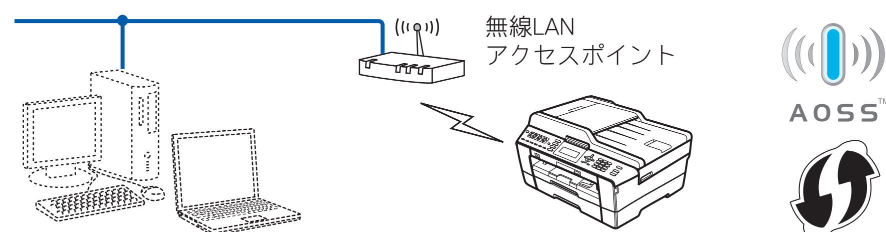
本製品に接続する無線 LAN アクセスポイントが、WPS/AOSS™（PBC[*1] 方式）のどちらかに対応している場合に、無線 LAN アクセスポイントの簡単設定を使用して、本製品の無線 LAN 設定を行います。




*1 Push Button Configuration

## 無線 LAN アクセスポイントの簡単設定（WPS/AOSS™）を使用する（インフラストラクチャ通信のみ）

本製品を接続する無線 LAN アクセスポイントが WPS/AOSS™[*1]（PBC[*2] 方式）のどちらかに対応している場合は、操作パネルから無線 LAN アクセスポイントの簡単設定を使用して、自動で本製品の無線 LAN 設定ができます。
設定の方法について詳しくは、別冊の「かんたん設置ガイド」をご覧ください。




*1 WPS は Wi-Fi Protected Setup、AOSS™ は AirStation One-Touch Secure System の略です。
*2 Push Button Configuration

## 操作パネルから無線 LAN の設定を手動で行う（無線接続ウィザード）

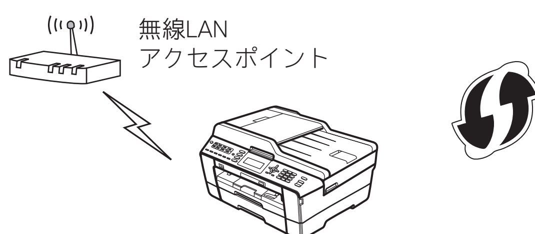
本製品の無線 LAN 設定をする場合は、操作パネルから無線接続ウィザードを使用することをお勧めします。無線接続ウィザードを使用すると、本製品を無線 LAN に簡単に接続することができます。設定を始める前にお使いの無線 LAN 環境を確認してください。
⇒「本製品の操作パネルから手動で無線 LAN 設定をする（無線接続ウィザード）」P.3-7

# WPS の PIN 方式を使用する（インフラストラクチャ通信のみ）

本製品を接続する無線 LAN アクセスポイントが WPS に対応している場合は、WPS の PIN（Personal Identification Number：個人認証番号）方式を使用して本製品の無線 LAN 設定をすることもできます。
⇒「WPS の PIN コード入力方式を使用する」P.3-15

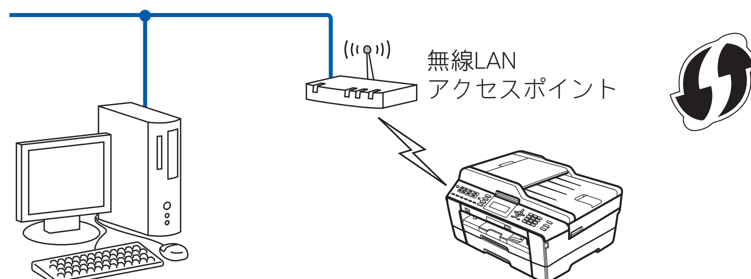
## 無線 LAN アクセスポイントをレジストラとして使用する場合の接続

無線 LAN アクセスポイントを無線 LAN のレジストラ（登録管理機器）として使用します。




## パソコンなど別の機器をレジストラとして使用する場合の接続

無線 LAN アクセスポイントに接続しているパソコンなどを無線 LAN のレジストラ（登録管理機器）として使用します。



# 無線 LAN を設定する



- 本製品を無線 LAN に接続する場合は、インストール前にネットワーク管理者にお問い合わせいただき、無線 LAN の設定を確認してください。
- すでに本製品で無線 LAN 設定を行ったことがあり、設定をしなおす場合は、ネットワーク設定をリセットしてください。
  ⇒「ネットワーク設定リセット」P.5-11

## ブラザーインストーラーを使用する

設定の方法について詳しくは、⇒「ブラザーインストーラーを使用して無線 LAN 設定をする」P.4-2をご覧ください。

## 無線 LAN アクセスポイントの簡単設定（WPS/AOSS™）を使用する

WPS（Wi-Fi Protected Setup）または AOSS™（AirStation One-Touch Secure System：無線 LAN 簡単設定システム）対応の無線 LAN アクセスポイントをご使用の場合は、アクセスポイントのボタンを押すだけで、本製品の無線 LAN 設定が行えます。設定の方法について詳しくは、別冊の「かんたん設置ガイド」をご覧ください。

## 本製品の操作パネルから手動で無線 LAN 設定をする（無線接続ウィザード）

本製品の操作パネルのネットワークメニューから、無線接続ウィザード機能を使って無線接続設定ができます。

- 本製品を SSID（ネットワーク名）とネットワークキーを使って、すでにお使いの無線 LAN ネットワークに参加させる場合は、別冊の「かんたん設置ガイド」をご覧ください。
  無線 LAN アクセスポイントが SSID の隠ぺい（SSID ステルスモード）に設定されている場合は、接続先の SSID は表示されません。その場合は、SSID を入力して設定を行うこともできます。
  ⇒「SSID が隠ぺいされている場合（液晶ディスプレーモデル）」P.3-7
  ⇒「SSID が隠ぺいされている場合（タッチパネルモデル）」P.3-11
- 本製品を接続する無線 LAN アクセスポイントが WPS に対応している場合は、WPS の PIN（Personal Identification Number：個人認証番号）方式を使用して本製品の無線 LAN 設定をすることもできます。
  ⇒「WPS の PIN コード入力方式を使用する」P.3-15

### SSID が隠ぺいされている場合（液晶ディスプレーモデル）



アドホック通信は、本製品とパソコンとの 1 対 1 通信となるため、無線アクセスポイントとパソコンが既に接続されている場合は、その設定が失われます。アドホック通信の設定を行う前に、必ず、現在のパソコンの無線設定を書き留めておくようにしてください。また、アドホック通信を行う場合は、あらかじめパソコンで SSID を設定しておく必要があります。

**1** 使用する無線 LAN アクセスポイントの取扱説明書を参照して、SSID（ネットワーク名）を調べて控えておきます。これは設定手順で必要な情報です。

SSID は、メーカーによっては ESSID、ESS-ID とも呼ばれています。

| | |
|---|---|
| SSID（ネットワーク名） | |

**2** 使用する無線 LAN アクセスポイントの取扱説明書を参照して、認証方式、暗号化方式、ネットワークキーを調べて控えておきます。これらは設定手順で必要な情報です。

(1) オープンシステム認証の場合

暗号化の有無とネットワークキー（WEP キー）を調べます。

| | |
|---|---|
| 認証方式 | オープンシステム認証 |
| 暗号化方式 | なし |

または

| | |
|---|---|
| 認証方式 | オープンシステム認証 |
| 暗号化方式 | WEP |
| WEP キー | |

(2) 共有キー認証の場合

ネットワークキー（WEP キー）を調べます。

| | |
|---|---|
| 認証方式 | 共有キー認証 |
| 暗号化方式 | WEP |
| WEP キー | |

(3)WPA-PSK の場合

ネットワークキー（事前共有キー）を調べます。

| | |
|---|---|
| 認証方式 | WPA-PSK |
| 暗号化方式 | TKIP |
| 事前共有キー | |

(4)WPA2-PSK の場合

ネットワークキー（事前共有キー）を調べます。

| | |
|---|---|
| 認証方式 | WPA2-PSK |
| 暗号化方式 | AES |
| 事前共有キー | |

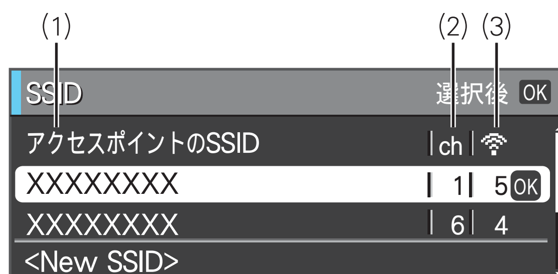



- ネットワークキーは大文字、小文字が区別されます。正確に確認してください。
- 無線 LAN アクセスポイントに複数の WEP キー（WEP キー 1、WEP キー 2、WEP キー 3、WEP キー 4 など）を設定している場合は、WEP キー 1 を控えておきます。本製品では 1 番目の WEP キーのみ使用できます。
- WEP キーは 5/10/13/26 文字のいずれかです。

**3** メニュー を押し、▲/▼ で【ネットワーク】を選び、OK【無線 LAN】OK【無線接続ウィザード】の順に選び、OK を押します。

本製品が有線 LAN に設定されていた場合、【無線に切替えますか？】というメッセージが表示されます。

OK を押すと、接続できる SSID を検索します。検索が終わると、SSID の一覧が表示されます。




(1) アクセスポイントの SSID：SSID が表示されます。
(2) チャンネル：使用しているチャンネルが 1 ～ 14 で表示されます。
(3) 電波強度：電波の強さが 0 ～ 9 の 10 段階で表示されます。

**4** ▲/▼ で【<New SSID>】を選び、OK を押します。

**5** 1 で控えた無線 LAN アクセスポイントの SSID（ネットワーク名）を入力して、OK を押します。

文字の入力方法について詳しくは、ユーザーズガイド 基本編「文字の入力方法」をご覧ください。

**6** ▲/▼ で【インフラストラクチャ】を選び、OK を押します




アドホック通信を使用する場合は【アドホック】を選びます。画面の指示に従って、設定を進めてください。

**7** ▲/▼ で 2 で控えた認証方式を選び、OK を押します。

【オープンシステム認証】を選んだ場合は、8 へ進みます。
【共有キー認証】を選んだ場合は、9 へ進みます。
【WPA/WPA2-PSK】を選んだ場合は、10 へ進みます。

**8** ▲/▼ で 2 で控えた暗号化方式を選び、OK を押します。

【WEP】を選んだ場合は、9 へ進みます。
【なし】を選んだ場合は、12 へ進みます。

**9** 2 で控えた WEP キーを入力して、OK を押し、12 へ進みます。

文字の入力方法について詳しくは、ユーザーズガイド 基本編「文字の入力方法」をご覧ください。

**10** ▲/▼ で 2 で控えた暗号化方式を選び、OK を押します。

WPA-PSK の場合は【TKIP】、WPA2-PSK の場合は【AES】を選びます。

**11** 2 で控えた事前共有キーを入力して、OK を押します。

文字の入力方法について詳しくは、ユーザーズガイド 基本編「文字の入力方法」をご覧ください。

**12** 【設定を適用しますか？】と表示されたら、1 を押します。

**13** 本製品と接続先の機器（無線 LAN アクセスポイントなど）が無線で接続されます。

正常に接続された場合は、本製品の画面に【接続しました】と表示されます。




お使いの環境によっては、接続に数分かかることがあります。

**14** 接続設定が完了すると、自動的に無線 LAN レポートが印刷されます。

無線 LAN レポートの「Connection」の項目を確認してください。
「Connection:OK」と記載されていたら、正常に接続されました。




「Connection:Failed」と記載されていた場合は、接続に失敗しました。画面表示の内容と合わせて無線 LAN レポートを確認してください。

- 【ネットワークキーが違います】と表示された場合は、停止/終了 を押してください。入力したネットワークキーが間違っています。2 の情報を確認して 3 から設定し直してください。
- 【接続に失敗しました】と表示された場合は、停止/終了 を押してください。無線 LAN アクセスポイントの電源が入っているか確認してください。一時的に本製品と無線 LAN アクセスポイントの距離を 1m 程度に近づけて、もう一度、3 から設定し直してください。
- 無線 LAN レポートのエラーコード（Error:TS-XX）を確認してください。エラーコードの内容については、別冊の「かんたん設置ガイド」の「困ったときは」をご覧になり、問題を解決してから、もう一度、設定をやり直してください。
- それでも接続できない場合は、⇒「無線 LAN アクセスポイントに接続できない」P.10-2 をご覧ください。

**15** OK を押します。

設定メニューを完了します。

## SSID が隠ぺいされている場合（タッチパネルモデル）



アドホック通信は、本製品とパソコンとの 1 対 1 通信となるため、無線アクセスポイントとパソコンが既に接続されている場合は、その設定が失われます。アドホック通信の設定を行う前に、必ず、現在のパソコンの無線設定を書き留めておくようにしてください。また、アドホック通信を行う場合は、あらかじめパソコンで SSID を設定しておく必要があります。

**1** 使用する無線 LAN アクセスポイントの取扱説明書を参照して、SSID（ネットワーク名）を調べて控えておきます。これは設定手順で必要な情報です。

SSID は、メーカーによっては ESSID、ESS-ID とも呼ばれています。

| | |
|---|---|
| SSID（ネットワーク名） | |

**2** 使用する無線 LAN アクセスポイントの取扱説明書を参照して、認証方式、暗号化方式、ネットワークキーを調べて控えておきます。これらは設定手順で必要な情報です。

(1) オープンシステム認証の場合

暗号化の有無とネットワークキー（WEP キー）を調べます。

| | |
|---|---|
| 認証方式 | オープンシステム認証 |
| 暗号化方式 | なし |

または

| | |
|---|---|
| 認証方式 | オープンシステム認証 |
| 暗号化方式 | WEP |
| WEP キー | |

(2) 共有キー認証の場合

ネットワークキー（WEP キー）を調べます。

| | |
|---|---|
| 認証方式 | 共有キー認証 |
| 暗号化方式 | WEP |
| WEP キー | |

(3)WPA-PSK の場合

ネットワークキー（事前共有キー）を調べます。

| | |
|---|---|
| 認証方式 | WPA-PSK |
| 暗号化方式 | TKIP |
| 事前共有キー | |

(4)WPA2-PSK の場合
ネットワークキー（事前共有キー）を調べます。

| | |
|---|---|
| 認証方式 | WPA2-PSK |
| 暗号化方式 | AES |
| 事前共有キー | |



- ネットワークキーは大文字、小文字が区別されます。正確に確認してください。
- 無線 LAN アクセスポイントに複数の WEP キー（WEP キー 1、WEP キー 2、WEP キー 3、WEP キー 4 など）を設定している場合は、WEP キー 1 を控えておきます。本製品では 1 番目の WEP キーのみ使用できます。
- WEP キーは 5/10/13/26 文字のいずれかです。

## 3 【メニュー】を押し、【ネットワーク】、【無線 LAN】、【無線接続ウィザード】の順に押します。




本製品が有線 LAN に設定されていた場合、【無線に切替えますか？】というメッセージが表示されます。【はい】を押すと、接続できる SSID を検索します。検索が終わると、SSID の一覧が表示されます。

(1)SSID：SSID が表示されます（最大 32 桁）。
(2) チャンネル：使用しているチャンネルが 1 ～ 14 で表示されます。
(3) 電波強度：電波の強さが 0 ～ 9 の 10 段階で表示されます。

## 4 【<New SSID>】を押します。

表示されていない場合は、▼ / ▲ を押して画面をスクロールさせます

## 5 1 で控えた無線 LAN アクセスポイントの SSID（ネットワーク名）を入力して、OK を押します。

文字の入力方法について詳しくは、ユーザーズガイド 基本編「文字の入力方法」をご覧ください。

## 6 【インフラストラクチャ】を押します。



アドホック通信を使用する場合は【アドホック】を選びます。画面の指示に従って、設定を進めてください。

## 7 2 で控えた認証方式を選びます。

【オープンシステム認証】を選んだ場合は、8 へ進みます。
【共有キー認証】を選んだ場合は、9 へ進みます。
【WPA/WPA2-PSK】を選んだ場合は、10 へ進みます。

## 8 2 で控えた暗号化方式を選びます。

【WEP】を押した場合は、9 へ進みます。
【なし】を押した場合は、12 へ進みます。

## 9 2 で控えた WEP キーを入力して、OK を押し、12 へ進みます。

文字の入力方法について詳しくは、ユーザーズガイド 基本編「文字の入力方法」をご覧ください。

## 10 2 で控えた暗号化方式を選びます。

WPA-PSK の場合は【TKIP】、WPA2-PSK の場合は【AES】を選びます。

## 11 2 で控えた事前共有キーを入力して、OK を押します。

文字の入力方法について詳しくは、ユーザーズガイド 基本編「文字の入力方法」をご覧ください。

## 12 【設定を適用しますか？】と表示されたら、【はい】を押します。

## 13 本製品と接続先の機器（無線 LAN アクセスポイントなど）が無線で接続されます。

正常に接続された場合は、本製品の画面に【接続しました】と表示されます。




お使いのネットワーク環境によっては、接続に数分かかることがあります。

## 14 接続設定が完了すると、自動的に無線 LAN レポートが印刷されます。

無線 LAN レポートの「Connection」の項目を確認してください。
「Connection:OK」と記載されていたら、正常に接続されました。



「Connection:Failed」と記載されていた場合は、接続に失敗しました。画面表示の内容と合わせて無線 LAN レポートを確認してください。

- 【ネットワークキーが違います】と表示された場合は、停止/終了 を押してください。入力したネットワークキーが間違っています。2 の情報を確認して 3 から設定し直してください。
- 【接続に失敗しました】と表示された場合は、停止/終了 を押してください。無線 LAN アクセスポイントの電源が入っているか確認してください。一時的に本製品と無線 LAN アクセスポイントの距離を 1m 程度に近づけて、もう一度、3 から設定し直してください。
- 無線 LAN レポートのエラーコード（Error:TS-XX）を確認してください。エラーコードの内容については、別冊の「かんたん設置ガイド」の「困ったときは」をご覧になり、問題を解決してから、もう一度、設定をやり直してください。
- それでも接続できない場合は、⇒「無線 LAN アクセスポイントに接続できない」P.10-2 をご覧ください。

## 15 ✕ を押します。

設定メニューを完了します。

# WPS の PIN コード入力方式を使用する

WPS 対応の無線 LAN アクセスポイントをお持ちの場合、PIN（Personal Identification Number）コードを入力することで無線 LAN とセキュリティーの設定を行うことができます。ここでは、本製品の PIN コードを表示させて確認することができます。
PIN コードを使用してネットワークに本製品を接続するには、お使いのルーターや無線 LAN アクセスポイントが WPS に対応している必要があります。次のロゴがついているかご確認ください。詳しくは、お使いの無線 LAN アクセスポイントのマニュアルをご覧ください。



**1** （液晶ディスプレーモデルの場合）
メニュー を押し、▲/▼ で【ネットワーク】を選び、OK【無線 LAN】OK【WPS（PIN コード)】の順に選び、OK を押します。
（タッチパネルモデルの場合）
【メニュー】を押し、【ネットワーク】、【無線 LAN】の順に押します。▼/▲ を押して画面をスクロールさせ、【WPS（PIN コード)】を押します。

本製品が有線 LAN に設定されていた場合は、【無線に切替えますか？】というメッセージが表示されます。OK（液晶ディスプレーモデル）または【はい】（タッチパネルモデル）を押すと、無線 LAN に切り替わります。

画面に 8 桁の PIN コードが表示されます。

**2** 本製品の PIN コードをパソコンから無線 LAN アクセスポイントまたはレジストラへ登録します。
正常に接続された場合は、【接続しました】と表示されます。



- 登録の方法について詳しくは、無線 LAN アクセスポイントまたはレジストラのマニュアルをご覧ください。
- WPS（PIN コード）設定中は最長で 5 分程度、操作ができなくなります。
- 設定を中止したい場合は、停止/終了 を押します。

**3** **接続設定が完了すると、自動的に無線 LAN レポートが印刷されます。**

無線 LAN レポートの「Connection」の項目を確認してください。
「Connection:OK」と記載されていたら、正常に接続されました。




無線 LAN レポートに「Connection:Failed」と記載されていた場合は、接続に失敗しました。エラーコード（Error:TS-XX）を確認してください。エラーコードの内容については、別冊の「かんたん設置ガイド」の「困ったときは」をご覧になり、問題を解決してから、もう一度、設定をやり直してください。

# 第 4 章

# ブラザーインストーラーを使用して無線 LAN 設定をする

# 第 4 章 ブラザーインストーラーを使用して無線 LAN 設定をする

本製品に付属のドライバー＆ソフトウェア CD-ROM に収録されているブラザーインストーラーを使用して、本製品の無線 LAN 設定をすることができます。

## 無線 LAN 設定を始める前に




- 本製品を接続する無線 LAN アクセスポイントが WPS または AOSS™ のどちらかに対応している場合は、操作パネルから無線 LAN アクセスポイントの簡単設定を使用して、自動で本製品の無線 LAN 設定ができます。設定の方法について詳しくは、別冊の「かんたん設置ガイド」をご覧ください。
- すでに本製品で無線 LAN 設定を行ったことがあり、設定をしなおす場合は、ネットワーク設定をリセットしてください。
  ⇒「ネットワーク設定リセット」P.5-11
- 一時的に接続して設定を行う USB ケーブルまたは LAN ケーブルが必要です。
- 手動設定を行うには、お使いの無線 LAN アクセスポイント（ルーターなど）に設定されている情報が必要です。必ず、無線 LAN アクセスポイントの設定を確認してください。
- 無線 LAN アクセスポイントに設定されている情報は本製品からは調べることができません。お使いの無線 LAN アクセスポイントの取扱説明書をご覧ください。それでもわからない場合は、お使いの無線 LAN アクセスポイントのメーカーにお問い合わせください。
- パーソナルファイアウォールをお使いの場合
  パソコンに、ファイアウォールなどの機能を持つソフトウェアがインストールされている場合は、いったん停止させるか UDP のポート 137 を有効に設定してから、ドライバーのインストールを行ってください。設定方法については、ソフトウェア提供元へご相談ください。
- Windows® のパーソナルファイアウォール機能について
  Windows® で、「インターネット接続ファイアウォール」が有効に設定されている場合は、次の手順で無効にしてから、ドライバーのインストールを行ってください。
  - Windows® XP SP1 の場合
    (1) コントロールパネルから、［ネットワーク接続］をクリックする
    (2) 使用しているネットワークアイコン（ローカルエリア接続など）を右クリックし、［プロパティ］をクリックする
    (3) ［詳細設定］タブをクリックする
    (4) ［インターネットからこのコンピュータへのアクセスを制御したり防いだりして、コンピュータとネットワークを保護する］のチェックをはずす
    (5) ドライバーのインストールが終わったら、ファイアウォールを有効に戻す
  - Windows® XP SP2 以降の場合
    (1) コントロールパネルから、［セキュリティセンター］をクリックする
    (2) ［Windows ファイアウォール］をクリックする
    (3) ［無効（推奨されません）］を選んで、［OK］をクリックする
    (4) ドライバーのインストールが終わったら、ファイアウォールを有効に戻す
    ※ ファイアウォールを有効に戻すと、ソフトウェアの一部の機能が利用できなくなります。
    ⇒「セキュリティーソフトウェアについて」P.10-6
  - Windows Vista® の場合
    (1) コントロールパネルから、［セキュリティ］をクリックする
    (2) ［Windows ファイアウォールの有効化または無効化］をクリックする
    (3) ［無効（推奨されません）］を選んで、［OK］をクリックする
    (4) ドライバーのインストールが終わったら、ファイアウォールを有効に戻す
    ※ ファイアウォールを有効に戻すと、ソフトウェアの一部の機能が利用できなくなります。
    ⇒「セキュリティーソフトウェアについて」P.10-6
  - Windows® 7 の場合
    (1) コントロールパネルから、［システムとセキュリティ］をクリックする
    (2) ［Windows ファイアウォール］をクリックする
    (3) ［Windows ファイアウォールの有効化または無効化］をクリックする
    (4) ［Windows ファイアウォールを無効にする（推奨されません）］を選んで、［OK］をクリックする
    (5) ドライバーのインストールが終わったら、ファイアウォールを有効に戻す
    ※ ファイアウォールを有効に戻すと、ソフトウェアの一部の機能が利用できなくなります。
    ⇒「セキュリティーソフトウェアについて」P.10-6

# 無線 LAN 設定をする

1 使用する無線 LAN アクセスポイントの取扱説明書を参照して、SSID（ネットワーク名）とネットワークキーを調べて控えておきます。これらは設定手順で必要な情報です。

SSID は、メーカーによっては ESSID、ESS-ID とも呼ばれています。オープンシステム認証でセキュリティーなし（暗号化なし）の場合は、ネットワークキーはありません。

| | |
|---|---|
| SSID<br>（ネットワーク名） | |
| ネットワークキー<br>（セキュリティーキー / 暗号化キー） | |



無線 LAN アクセスポイントに複数の WEP キー（WEP キー 1、WEP キー 2、WEP キー 3、WEP キー 4 など）を設定している場合は、WEP キー 1 を控えておきます。本製品では 1 番目の WEP キーのみ使用できます。

2 本製品の電源プラグをコンセントに差し込みます。

3 パソコンの電源を入れます。

4 本製品に付属のドライバー＆ソフトウェア CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

（Windows® の場合）

(1) モデルを選ぶ画面が表示されたときは、お使いのモデルをクリックします。



画面が表示されないときは、［マイコンピュータ］から CD-ROM ドライブをダブルクリックし、［start.exe］をダブルクリックしてください。

(2)［インストール］をクリックします。



(3)［無線 LAN 設定ウィザード］をクリックします。



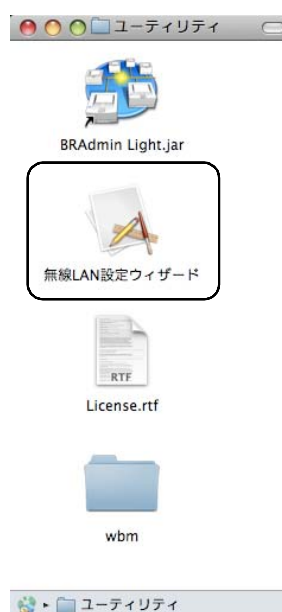

（Macintosh の場合）

(1)［MFL_PRO Suite］アイコンをダブルクリックします。

(2)［ユーティリティ］フォルダーをダブルクリックします。




(3)［無線 LAN 設定ウィザード］をダブルクリックします。



## 5 無線 LAN アクセスポイントが WPS または AOSS™ に対応していて、無線 LAN の簡単設定を使う場合は、［アクセスポイントが WPS/AOSS に対応しているので、自動設定機能を使います。］を選択し、［次へ］をクリックします。

**自動設定を使わない場合は、［自動設定機能を使いません。］を選択し、［次へ］をクリックします。**

［自動設定機能を使いません。］を選択した場合は、次の 4 つの方法で無線 LAN を設定できます。
- 一時的に USB ケーブルを接続して設定する（推奨）
- 一時的に LAN ケーブルを接続して設定する
- ケーブルを使用せず、操作パネルを使用して設定する
- ケーブルを使用せず、アドホックモードで設定する

## 6 画面に従って無線 LAN の設定をしてください。

無線 LAN の設定が完了した後、引き続き、プリンタードライバーやソフトウェアのインストールを行う場合は、本製品に付属のドライバー＆ソフトウェア CD-ROM からインストールを進めてください。
⇒「かんたん設置ガイド」




（Windows® の場合）無線 LAN 接続設定ができないまま、プリンタードライバーなどのインストールを進めると、エラーメッセージが表示されることがあります。本製品を無線 LAN 接続で使用する場合は、設定を完了してからインストールを行ってください。

# 第 5 章
# 操作パネルで設定する

# 第 5 章 操作パネルで設定する

パソコンから操作しなくても、本製品の操作パネルやタッチパネルのボタンを使用して、本製品をネットワークで使用するための設定ができます。液晶ディスプレーやタッチパネルの画面には、現在の設定内容や選べる項目名が表示されます。【ネットワーク】メニューから項目を選択して設定します。

⇒「ネットワークメニュー一覧」P.5-15

操作パネルやタッチパネルの操作方法について詳しくは、下記をご覧ください。

液晶ディスプレーモデルの場合

⇒ユーザーズガイド 基本編「各部の名称とはたらき」－「メニュー画面」

タッチパネルモデルの場合

⇒ユーザーズガイド 基本編「各部の名称とはたらき」－「タッチパネル」

本製品に付属の BRAdmin Light、ウェブブラウザーまたは、リモートセットアップ機能を使用してネットワークの設定を変更することもできます。

⇒「その他の管理ユーティリティーで設定する」P.2-5

## 有線 LAN/ 無線 LAN の設定

### TCP/IP の設定

TCP/IP を使用して印刷するには、本製品に IP アドレスを設定します。

パソコンと同じネットワーク上に本製品が接続されている場合は、IP アドレスとサブネットマスクを設定します。ルーターの先に本製品が接続されている場合は、ルーターのアドレス（ゲートウェイ）も設定します。

#### IP 取得方法

IP アドレスの取得方法を設定します。



RARP、BOOTP、DHCP または APIPA 機能を使用している場合は、TCP/IP の各項目は自動的に設定されます。

それらの機能を使用しないで手動で IP アドレスを設定する場合は、自動的に IP アドレスを取得しないように【IP 取得方法】を【Static】に設定してください。

#### IP アドレス

本製品の現在の IP アドレスを確認できます。【IP 取得方法】で【Static】以外の取得方法が選ばれている場合は、RARP、BOOTP または DHCP のプロトコルを使用して IP アドレスを自動的に取得します。

IP アドレスを変更すると、【IP 取得方法】は自動的に【Static】に変わります。

#### サブネットマスク

本製品の現在のサブネットマスクを確認できます。RARP、BOOTP、DHCP または APIPA 機能を使用していない場合は、サブネットマスクを手動で入力してください。設定するサブネットマスクについてはネットワーク管理者にお問い合わせください。

## ●ゲートウェイ

本製品の現在のゲートウェイ（ルーター）のアドレスを確認できます。RARP、BOOTP、DHCP または APIPA 機能を使用していない場合はアドレスを手動で指定します。ゲートウェイ（ルーター）を使用しない場合は、お買い上げ時の設定（初期値）【000.000.000.000】にしておいてください。アドレスがわからない場合はネットワーク管理者へお問い合わせください。

## ●ノード名

ノード名をネットワークで使用するために登録します（WINS サーバーに登録されている NetBIOS 名になります）。お買い上げ時の設定（初期値）は、【BRNxxxxxxxxxxxx】（有線 LAN）または【BRWxxxxxxxxxxxx】（無線 LAN）（xxxxxxxxxxxx は MAC アドレスを示す 12 桁の文字）です。
ノード名を変更する場合は、15 文字以内で設定してください。

## ● WINS 設定

WINS（Windows® Internet Naming Service）サーバーアドレスの取得方法を設定します。

- Auto
  DHCP サーバーからプライマリー、セカンダリの WINS サーバーアドレスを自動的に取得します。【IP 取得方法】が【Auto】または【DHCP】に設定されている必要があります。

- Static
  手動で WINS サーバーアドレスを設定します。

## ● WINS サーバー

WINS（Windows® Internet Naming Service）サーバーのアドレスを設定します。

- プライマリー
  この項目でプライマリー WINS サーバーの IP アドレスを登録します。ゼロ以外の数値が設定されている場合、WINS サーバーにノード名を登録します。

- セカンダリ
  この項目でセカンダリ WINS サーバーの IP アドレスを登録します。セカンダリ WINS サーバーはプライマリー WINS サーバーの機能の一部を補完し、プライマリーサーバーが見つからないときに機能します。ゼロ以外の数値が設定されている場合、WINS サーバーにノード名を登録します。
  ネットワーク内にセカンダリ WINS サーバーが存在しない場合は入力しなくても構いません。

## ● DNS サーバー

DNS（ドメインネームシステム）サーバーのアドレスを設定します。

- プライマリー
  プライマリー DNS サーバーのアドレスを指定します。

- セカンダリ
  セカンダリ DNS サーバーのアドレスを指定します。セカンダリ DNS サーバーはプライマリー DNS サーバーの機能の一部を補完し、プライマリーサーバーが見つからない場合に機能します。
  ネットワークの負荷が大きい場合に設定してください。

## APIPA

IP アドレス配布サーバー（RARP、BOOTP、DHCP など）を利用していない場合でも、【APIPA】（AutoIP）を【オン】に設定しておくと、本製品に IP アドレスを自動的に割り当てます。
このとき、IP アドレスは 169.254.1.0 ～ 169.254.254.255 の範囲で割り当てられます。この機能を使用しないときは【オフ】に設定してください。
割り当てられた IP アドレスがお使いのネットワーク環境の IP アドレスの設定規則に適さない場合は、BRAdmin Light や操作パネルから IP アドレスを変更してください。

⇒「TCP/IP の設定」P.5-2
⇒「IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを設定する」P.2-3

## IPv6

本製品はインターネットプロトコル・バージョン 6（IPv6）に対応しています。IPv6 プロトコルを使用する場合は、【オン】に設定してください。




- IPv6 を【オン】に設定した場合は、設定を有効にするために、一度、本製品の電源を入れなおしてください。
- IPv6 を【オン】に設定した場合は、有線 LAN 接続、無線 LAN 接続のどちらでも有効です。

## イーサネット（有線 LAN のみ）

リンクモードを設定します。

### Auto

100BaseTX（全二重 / 半二重）、10BaseT（全二重 / 半二重）モードを自動的に選びます。

### 100B-FD/100B-HD/10B-FD/10B-HD

それぞれのリンクモードに固定されます。
100B-FD：100BaseTX Full Duplex（全二重）
100B-HD：100BaseTX Half Duplex（半二重）
10B-FD：10BaseT Full Duplex（全二重）
10B-HD：10BaseT Half Duplex（半二重）

## 無線接続ウィザード（無線 LAN のみ）

本製品の操作パネルからウィザード形式で無線 LAN を設定することができます。設定方法について詳しくは、別冊の「かんたん設置ガイド」または、⇒「無線 LAN アクセスポイントの簡単設定（WPS/AOSS™）を使用する」P.3-7 をご覧ください。

## WPS/AOSS™（無線 LAN のみ）

WPS（Wi-Fi Protected Setup）または AOSS™（AirStation One-Touch Secure System：無線 LAN 簡単設定システム）対応の無線 LAN アクセスポイントをお持ちの場合は、アクセスポイントのボタンを押すだけで、本製品の無線 LAN 設定が行えます。

## WPS（PIN コード）（無線 LAN のみ）

WPS 対応の無線 LAN アクセスポイントをお持ちの場合、PIN（Personal Identification Number）コードを入力することで無線 LAN とセキュリティーの設定を行うことができます。

## 無線状態（無線 LAN のみ）

無線 LAN をお使いの場合、ネットワーク設定や状況を確認できます。

### 接続状態

無線 LAN の接続状態を表示します。

### 電波状態

無線 LAN の電波状態を表示します。

### SSID

無線 LAN の SSID（ネットワーク名）を表示します。

### 通信モード

無線 LAN の通信モードを表示します。

## MAC アドレス

本製品の現在の MAC アドレスを確認できます。MAC アドレスは、本製品のネットワークインターフェースに割り当てられたアドレス番号です。MAC アドレスは変更できません。

# E メール /IFAX の設定（MFC-J6710CDW/J6910CDW のみ）



（MFC-J6710CDW の場合）インターネットファクス機能をお使いになる場合は、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター http://solutions.brother.co.jp/）からソフトウェアをダウンロードしてください。

メール送受信機能やインターネットファクス機能を使用するには、次の項目を設定します。

- メールアドレス
- サーバー設定
- メール受信設定
- メール送信設定
- リレー設定

これらの設定を行う際には、ウェブブラウザーを使用すると、パソコンのキーボードを使用できるため、本製品の操作パネルから入力するより文字の入力が簡単にできて便利です。

⇒「ウェブブラウザーで管理する」P.6-2

操作パネルからの文字の入力方法について詳しくは、ユーザーズガイド 基本編「文字の入力方法」をご覧ください。

## メールアドレス

E メールアドレスを登録します。

## サーバー設定

### SMTP サーバー

ネットワーク上の SMTP メールサーバー（送信用サーバー）の IP アドレスまたはサーバー名を設定します。この項目はインターネットファクス機能を使用する上で正しく設定されている必要があります。（例：mail.xyz.com または 192.168.001.099）

### SMTP ポート

SMTP メールサーバー（送信用サーバー）のポートを指定します。

### SMTP Auth.

ユーザー認証を必要とするセキュリティーの高い SMTP サーバーを経由して E メールを送信するには、SMTP 認証の設定が必要です。

### POP3 サーバ

ネットワーク上の POP3 メールサーバー（受信用サーバー）の IP アドレスまたはサーバー名を設定します。この項目はインターネットファクス機能を使用する上で正しく入力されている必要があります。（例：pop.xyz.com または 192.168.001.099）

### POP3 ポート

POP3 メールサーバー（受信用サーバー）のポートを指定します。

### アカウント名
POP3 メールサーバー（受信用サーバー）にアクセスするためには、アクセス用アカウントとパスワードが必要です。この項目では、アクセス用アカウント名（ユーザー名）を設定します。アカウント名を設定したあとは、必ずパスワードも設定してください。

### パスワード
POP3 メールサーバー（受信用サーバー）にアクセスするためには、アクセス用アカウントとパスワードが必要です。この項目では、アクセス用アカウントと対になるパスワードを設定します。



パスワードを設定しない場合は、スペースを 1 つ入力してください。

### APOP
アカウントやパスワードのセキュリティーを保つために、APOP（Authenticated Post Office Protocol）を有効にできます。

## メール受信設定

### 自動受信（自動メールチェック機能）
自動受信を【オン】に設定すると、本製品は設定した時間ごとに POP3 サーバーへメールが届いているかチェックを行います。

### ポーリング間隔（自動メールチェックの頻度）
自動受信を【オン】に設定した場合、POP3 サーバーへメールが届いているかチェックを行う間隔を設定します。

### ヘッダー印刷
インターネットファクスや E メールを受信すると、本製品はメールの内容を印刷します。このときにヘッダー部分を印刷するかどうかを設定します。
- 【全て】：ヘッダーをすべて印刷します。
- 【ヘッダのみ】：ヘッダーから、タイトル、宛先、差出人を印刷します。
- 【なし】：ヘッダーを印刷しません。

### エラーメール削除
エラーメール削除を【オン】に設定すると、本製品がメールのチェックを行ったときに、POP3 サーバーから取得できなかったメールを削除することができます。

### 受信確認
本製品がインターネットファクスを受信したことを送信者に通知するよう設定できます。
- 【オン】：すべてのインターネットファクスメッセージに対して送信元に受信確認を送付します。
- 【MDN】：MDN（受信確認リクエスト）機能を使用して送られてきたインターネットファクスメッセージの送信元に対してのみ受信確認を送付します。
- 【オフ】：受信確認の送付を行いません。

## メール送信設定

### メールタイトル

パソコンへ E メールを送信するときに、件名（Subject）として表示されるテキストです。

### サイズ制限

サイズ制限を【オン】に設定しておくと、1MB を超えるサイズの E メールを送信したときに【メモリーがいっぱいです】と表示され、E メールの送信が中止されてエラーレポートが出力されます。サイズ制限を【オン】にしたときは、ページを分割して送信するなど、1 通の E メールを 1MB 以下にする必要があります。

### 受信確認要求

インターネットファクスを送信したとき、受信した相手機から受信確認メッセージを受け取るように要求します。受信側の機器で MDN（受信確認リクエスト）機能の設定が有効になっている必要があります。

## リレー設定

### リレー許可

リレー配信を行うかどうかを設定します。

### 許可ドメイン

本製品を経由して転送が可能なドメイン名を登録します（5 件まで）。ここに登録されていないドメインからのインターネットファクスは転送できません。

### リレーレポート

リレーレポートは、本製品を経由してインターネットファクスの転送が行われたときに出力されます。また、このレポートはネットワーク PC ファクス機能を使用したドキュメントの送信確認のときにも出力されます。




リレー配信について詳しくは、⇒「リレー配信する」P.7-5 をご覧ください。

# タイムゾーン設定

本製品が設置されている地域のタイムゾーンを設定します。




本製品に接続して使用するパソコンのタイムゾーンも、本製品のタイムゾーンと合わせて設定してください。

# 有線 LAN/ 無線 LAN を切り替える

ネットワークの接続方法が決定したら、本製品でも接続方法を設定します。設定を切り替えた場合は、画面の説明に従って、本製品を再起動してください。



- 本製品では、無線 LAN と有線 LAN を同時に使用することはできません。同時に接続していても、【有線 / 無線切替え】で設定されている接続が有効になります。
- 【有線 LAN】に設定されていても、無線接続の操作（WPS/AOSS™ 機能の利用または無線接続ウィザードの開始）を実行すると、自動的に【無線 LAN】に切り替わります。

# ネットワーク設定リセット

現在のネットワーク設定をすべて初期化して、お買い上げ時の設定に戻します。



- この設定では、IP アドレスやメールアドレスなど、すでに設定しているネットワークのすべての情報を初期化します。
- プリントサーバーの設定も BRAdmin アプリケーションやウェブブラウザーで初期化することができます。
  ⇒「BRAdmin Light で設定する」P.2-2
  ⇒「その他の管理ユーティリティーで設定する」P.2-5

## 液晶ディスプレーモデルの場合

**1** メニュー を押し、▲/▼ で【ネットワーク】を選び、OK を押します。

**2** ▲/▼ で【ネットワーク設定リセット】を選び、OK を押します。

【ネットワーク設定をリセットしますか？ / はい ⇒ 1 を押してください / いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されます。



メニュー を押し、▲/▼ で【初期設定】、【設定リセット】、【ネットワーク設定リセット】の順に選んでも設定できます。

**3** 1 を押します。

【再起動しますか ?/ はい ⇒ 1 を押してください / いいえ ⇒ 2 を押してください】と表示されます。

**4** 1 を押します。

数秒後に本製品が再起動します。

## タッチパネルモデルの場合

**1** 【メニュー】を押し、【ネットワーク】を押します。

**2** ▼ / ▲ を押して画面をスクロールさせ、【ネットワーク設定リセット】を押します。

【設定をリセットしますか？ / はい / いいえ】と表示されます。



【メニュー】を押し、【初期設定】、【設定リセット】、【ネットワーク設定リセット】の順に選んでも設定できます。

**3** 【はい】を押します。

【再起動しますか？実行する場合は ［はい］を 2 秒間押してください キャンセルする場合は［いいえ］を押してください / はい / いいえ】と表示されます。

**4** 【はい】を、2 秒間押します。

数秒後に本製品が再起動します。

# ネットワーク設定リストの出力

本製品の現在動作しているネットワーク接続（有線 LAN または無線 LAN）に関する設定内容（MAC アドレス、ノード名、IP アドレスなど）を印刷して確認できます。




ネットワーク設定リストは、モノクロでしか印刷できません。

## 液晶ディスプレーモデルの場合

1 メニュー を押し、▲/▼ で【レポート印刷】を選び、OK を押します。

2 ▲/▼ で【ネットワーク設定リスト】を選び、OK を押します。

3 モノクロスタート を押します。

## タッチパネルモデルの場合

1 【メニュー】を押し、▼ / ▲ を押して画面をスクロールさせ、【レポート印刷】を押します。

2 ▼ / ▲ を押して画面をスクロールさせ、【ネットワーク設定リスト】を押します。

3 モノクロスタート を押します。

# 無線 LAN レポートの出力

現在の本製品の無線接続状況を確認できます。
無線 LAN 接続が正しく設定できていない場合は、その対処法についても印刷されますので、通信がうまくできないときに出力して確認してください。レポートの内容について詳しくは、別冊の「かんたん設置ガイド」の「困ったときは」をご覧ください。




- 下記の手順を行っても無線 LAN レポートが印刷されない場合は、しばらく待ってから、もう一度やり直してください。
- 無線 LAN 接続設定をおこなった場合は、設定完了後に自動的に無線 LAN レポートが出力されます。無線 LAN 接続が正しく設定できているかをご確認ください。
  無線 LAN レポートの内容について詳しくは、別冊の「かんたん設置ガイド」をご覧ください。
- 無線 LAN レポートは、モノクロでしか印刷できません。

## 液晶ディスプレーモデルの場合

1. メニュー を押し、▲/▼ で【レポート印刷】を選び、OK を押します。
2. ▲/▼ で【無線 LAN レポート】を選び、OK を押します。
3. モノクロスタート を押します。

## タッチパネルモデルの場合

1. 【メニュー】を押し、▼/▲ を押して画面をスクロールさせ、【レポート印刷】を押します。
2. ▼/▲ を押して画面をスクロールさせ、【無線 LAN レポート】を押します。
3. モノクロスタート を押します。

# ネットワークメニュー一覧

| 機能 | 項目 | | | 設定（太字：初期設定値） |
|---|---|---|---|---|
| ネットワーク | 有線 LAN | TCP/IP | IP 取得方法 | **Auto** ／ Static ／ RARP ／ BOOTP ／ DHCP |
| | | | IP アドレス | [000-255].[000-255].[000-255].[000-255] |
| | | | サブネット マスク | [000-255].[000-255].[000-255].[000-255] |
| | | | ゲートウェイ | [000-255].[000-255].[000-255].[000-255] |
| | | | ノード名 | BRNxxxxxxxxxxxx（x は MAC アドレスを示す 12 桁の文字） |
| | | | WINS 設定 | **Auto** ／ Static |
| | | | WINS サーバ | プライマリ／セカンダリ |
| | | | DNS サーバ | プライマリ／セカンダリ |
| | | | APIPA | **オン**／オフ |
| | | | IPv6 | オン／**オフ** |
| | | イーサネット | | **Auto** ／ 100B-FD ／ 100B-HD ／ 10B-FD ／ 10B-HD |
| | | MAC アドレス | | − |
| | 無線 LAN | TCP/IP | IP 取得方法 | **Auto** ／ Static ／ RARP ／ BOOTP ／ DHCP |
| | | | IP アドレス | [000-255].[000-255].[000-255].[000-255] |
| | | | サブネット マスク | [000-255].[000-255].[000-255].[000-255] |
| | | | ゲートウェイ | [000-255].[000-255].[000-255].[000-255] |
| | | | ノード名 | BRWxxxxxxxxxxxx（x は MAC アドレスを示す 12 桁の文字） |
| | | | WINS 設定 | **Auto** ／ Static |
| | | | WINS サーバ | プライマリ／セカンダリ |
| | | | DNS サーバ | プライマリ／セカンダリ |
| | | | APIPA | **オン**／オフ |
| | | | IPv6 | オン／**オフ** |
| | | 無線接続ウィザード | | − |
| | | WPS/AOSS | | − |
| | | WPS（PIN コード） | | − |
| | | 無線状態 | 接続状態 | アクティブ（11b）/ アクティブ（11g）/ アクティブ（11n）/ 接続に失敗しました /AOSS アクティブ |
| | | | 電波状態 | 電波：強い / 普通 / 弱い / なし |
| | | | SSID | （32 文字まで表示） |
| | | | 通信モード | アドホック / インフラストラクチャ |
| | | MAC アドレス | | − |

| 機能 | 項目 | | | 設定（太字：初期設定値） |
|---|---|---|---|---|
| ネットワーク | E メール /IFAX[*1] | メール アドレス | | xxxxx＠example.com（60 文字以内） |
| | | サーバ設定 | SMTP サーバ | [000-255].[000-255].[000-255].[000-255]<br>（サーバー名は 30 文字以内） |
| | | | SMTP ポート | 1 ～ 65535（初期値 **25**） |
| | | | SMTP Auth. | **認証しない**／ SMTP Auth. ／ POP before SMTP |
| | | | POP3 サーバ | [000-255].[000-255].[000-255].[000-255]<br>（サーバー名は 30 文字以内） |
| | | | POP3 ポート | 1 ～ 65535（初期値 **110**） |
| | | | アカウント名 | （20 文字以内） |
| | | | パスワード | |
| | | | APOP | オン／**オフ** |
| | | メール 受信設定 | 自動受信 | **オン**／オフ |
| | | | ポーリング間隔 | 液晶ディスプレーモデル：01 ～ 60 分（初期値 **10 分**）、タッチパネルモデル：【自動受信】を【オン】に設定した場合、【1 分】、【3 分】、【5 分】、【10 分】、【30 分】、【60 分】から選択（初期値 **10 分**） |
| | | | ヘッダ印刷 | 全て／ヘッダのみ／**なし** |
| | | | エラーメール削除 | **オン**／オフ |
| | | | 受信確認 | オン／ MDN ／**オフ** |
| | | メール 送信設定 | メール タイトル | **Internet Fax Job**（40 文字以内） |
| | | | サイズ制限 | オン／**オフ** |
| | | | 受信確認要求 | オン／**オフ** |
| | | リレー 設定 | リレー 許可 | オン／**オフ** |
| | | | 許可 ドメイン | リレー 01 ～ 05：XXXXXXXXXX<br>（初期値 **01**、ドメイン名は 30 文字以内） |
| | | | リレー レポート | オン／**オフ** |
| | タイムゾーン | | | UTC-12:00 ～ UTC+12:00（初期値 **UTC ＋ 09:00**） |
| | 有線 / 無線切替え | | | **有線 LAN** ／無線 LAN |
| | ネットワーク設定リセット | | | － |

[*1] MFC-J6710CDW/J6910CDW のみ
（MFC-J6710CDW の場合）
インターネットファクス機能をお使いになる場合は、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター http://solutions.brother.co.jp/）からソフトウェアをダウンロードしてください。ソフトウェアを本製品にインストールすると、メニューが表示されます。

# 第 6 章
# ウェブブラウザーで管理する

# 第 6 章 ウェブブラウザーで管理する

## 概要

お使いの標準ウェブブラウザーで、HTTP（ハイパーテキスト転送プロトコル）を使用して、ネットワークに接続されている本製品を管理することができます。ウェブブラウザーを使用して、次のような情報を本製品から取得できます。

- 本製品の状態、メンテナンスに関する詳細情報の取得
- 送受信や応用機能などのファクス設定
- TCP/IP などのネットワーク設定変更
- セキュリティ機能ロック 2.0 の設定
- スキャン to FTP の設定
- スキャン to ネットワークの設定
- 本製品とプリントサーバーのソフトウェアバージョン情報の取得
- ネットワークと本製品の詳細設定




- Windows® の場合は、Microsoft® Internet Explorer® 6.0 以降、Macintosh の場合は Safari 3.0 以降を推奨します。
- JavaScript および Cookie を有効にして使用してください。



TCP/IP プロトコルによってパソコンがネットワーク接続されていることを確認してください。

# ウェブブラウザーを使用して本製品を設定する

お使いの標準ウェブブラウザーで、HTTP（ハイパーテキスト転送プロトコル）を使用して、プリントサーバーなどの設定を変更することができます。

1 ウェブブラウザーを起動します。

2 ウェブブラウザーのアドレス欄に 、「http://xxx.xxx.xxx.xxx/」と入力します。

「xxx.xxx.xxx.xxx」はご使用になる本製品の IP アドレスです。
例）本製品の IP アドレスが 192.168.1.3 の場合
ウェブブラウザーのアドレス欄に「http://192.168.1.3/」と入力します。




- DNS を使用している場合は、IP アドレスの代わりに他の名前を入力することもできます。
  例）Shared_Printer の場合
  ウェブブラウザーのアドレス欄に「http://Shared_Printer/」と入力します。
- NetBIOS 名が使用可能な場合は、ノード名を入力することもできます。NerBIOS 名はネットワーク設定リストで確認できます。
  ⇒「ネットワーク設定リストの出力」P.5-13
  例）BRNxxxxxxxxxxxx の場合
  ウェブブラウザーのアドレス欄に「http://brnxxxxxxxxxxxx/」と入力します。
- Macintosh をお使いの場合は、ステータスモニターの本製品のアイコンをクリックすると、ウェブブラウザーを使ってより簡単に本製品にアクセスできます。詳しくは、下記をご覧ください。
  ⇒ユーザーズガイド パソコン活用編「便利な使い方（ControlCenter2）」－「デバイス設定」

3 必要に応じてプリントサーバーなどの設定を変更します。




プロトコル設定を変更した場合は、変更内容を有効にするために、［OK］をクリックします。画面の指示に従って本製品を再起動してください。

## パスワードの設定

一般ユーザーから本製品への無許可アクセスを防ぐため、パスワードを設定することをお勧めします。パスワードを設定すると、一般ユーザーは［基本設定］タブ以外の設定を変更できなくなります。

1. ウェブブラウザーを起動します。

2. ウェブブラウザーのアドレス欄に 、「http://xxx.xxx.xxx.xxx/」と入力します。

   「xxx.xxx.xxx.xxx」はご使用になる本製品の IP アドレスです。
   例）本製品の IP アドレスが 192.168.1.3 の場合
   ウェブブラウザーのアドレス欄に「http://192.168.1.3/」と入力します。

3. ［管理者設定］タブをクリックします。

4. ［新しいパスワードの入力］欄にパスワード（32 文字以内）を入力します。

5. ［新しいパスワードの確認］欄にもう一度、パスワードを入力します。

6. ［OK］をクリックします。

   次回から［基本設定］タブ以外の設定を変更する際には、［ログイン］欄に管理者パスワードを入力して、→ をクリックします。設定の操作が完了したら、→ をクリックしてログアウトします。




ログインパスワードをセットしていない場合は、ウェブページの［パスワードを設定してください］をクリックすることによってパスワードを設定することもできます。

# セキュリティ機能ロック 2.0

セキュリティ機能ロック 2.0 を使用すると、ユーザー名とパスワードを登録することでユーザーごとに利用できる機能に制限を設定することにより、経費削減にもつながります。
BRAdmin Professional やウェブブラウザーを使用すると、次の機能について、セキュリティ機能ロック 2.0 の設定や変更ができます。

- PC プリント
- フォトメディアキャプチャ
- コピー
- カラープリント
- 印刷枚数の制限
- ファクス送受信
- スキャン
- ページカウンター

## ウェブブラウザーを使ってセキュリティ機能ロック 2.0 を設定する

### 基本設定

**1** ウェブブラウザーを起動し、アドレス欄に、「http://xxx.xxx.xxx.xxx/」と入力します。

「xxx.xxx.xxx.xxx」はご使用になる本製品の IP アドレスです。
例）本製品の IP アドレスが 192.168.1.3 の場合
ウェブブラウザーのアドレス欄に「http://192.168.1.3/」と入力します。

**2** ［管理者設定］タブ－［セキュリティ機能ロック］をクリックします。

**3** ［セキュリティ機能ロック］の［オン］を選択します。



ウェブブラウザーから初めてセキュリティ機能ロックの設定をするには、管理者パスワード（4 桁の数字）を入力する必要があります。

**4** グループ名またはユーザー名を［制限 ID 番号 /ID 名］（7 文字まで）に、パスワードを［パスワード］（4 桁の数字）に入力します。

**5** 制限したい機能のチェックをはずします。
印刷枚数を制限する場合は、［枚数制限］の［オン］にチェックを入れて、［Max.］に最大印刷可能枚数を入力してください。

**6** ［OK］をクリックします。



パソコンへログインするために使用しているユーザー名で、印刷制限をすることができます。［管理者設定］タブ－［ログイン名による PC プリント制限］をクリックして、設定してください。
⇒「パソコンのログイン名でプリントを制限する」P.6-6

## セキュリティロック機能 2.0 を使用してスキャンする

セキュリティロック機能 2.0 を使用して、管理者がスキャンできるユーザーを制限することができます。セキュリティロック機能 2.0 の設定画面で、[その他] − [スキャン] のチェックボックスにチェックを入れたユーザーだけがスキャン機能を使用できます。
本製品の操作パネルのスキャンボタンを押してスキャンする場合は、スキャンモードにアクセスするためにパスワードを入力する必要があります。制限されたユーザーはパソコンからスキャンする前に、本製品の操作パネルでパスワードを入力する必要があります。本製品のコントロールパネルからパスワードが入力されない場合は、パソコンにエラーメッセージが表示されます。

## 一般モードの設定

一般ユーザーが利用できる機能を制限するためには、一般モードを設定します。この機能で利用可能に設定された機能を使用する場合は、パスワードを入力する必要はありません。

1 **ウェブブラウザーを起動し、アドレス欄に、「http://xxx.xxx.xxx.xxx/」と入力します。**

「xxx.xxx.xxx.xxx」はご使用になる本製品の IP アドレスです。
例）本製品の IP アドレスが 192.168.1.3 の場合
ウェブブラウザーのアドレス欄に「http://192.168.1.3/」と入力します。

2 **[管理者設定] タブ − [セキュリティ機能ロック] をクリックします。**

3 **[一般モード] で制限しない機能のチェックボックスのチェックをはずします。**

4 **[OK] をクリックします。**

## パソコンのログイン名でプリントを制限する

この機能を使用すると、パソコンにログインするために使用しているユーザー名が登録されたパソコンからのみ、印刷することができます。

1 **ウェブブラウザーを起動し、アドレス欄に、「http://xxx.xxx.xxx.xxx/」と入力します。**

「xxx.xxx.xxx.xxx」はご使用になる本製品の IP アドレスです。
例）本製品の IP アドレスが 192.168.1.3 の場合
ウェブブラウザーのアドレス欄に「http://192.168.1.3/」と入力します。

2 **[管理者設定] タブ − [ログイン名による PC プリント制限] をクリックします。**

3 **[PC プリント制限] の [オン] を選択します。**

「基本設定」P.6-5の 4 で登録した [制限 ID 番号 /ID 名] を [制限 ID 番号] のプルダウンリストから選択し、パソコンへログインするために使用しているユーザー名を [ログイン名] に入力します。

4 ［OK］をクリックします。



グループ単位で印刷を制限したい場合は、グループにしたいユーザー名に対して、同じ［制限 ID 番号 /ID 名］を［制限 ID 番号］のプルダウンリストから選択します。

## その他の設定

セキュリティ機能ロック 2.0 の機能を使用すると、次のような設定ができます。

### カウンターリセット

全てのページカウンターを「0」にします。

### CSV ファイルへ出力

制限 ID 番号 /ID 名と現在のページカウンターの情報をエクスポートします。

### 前回ログ

ページカウンターがリセットされる以前の記録を表示します。

### カウンター自動リセット設定

定期的にページカウンターをリセットするための設定をします。

# ウェブブラウザーを使用して、スキャン to FTP の設定を変更する

スキャン to FTP は、スキャンした文書をインターネット上もしくは、ローカルネットワーク上の FTP サーバーへ直接送信します。スキャン to FTP について詳しくは、下記をご覧ください。
⇒ユーザーズガイド パソコン活用編「本製品でスキャンする（サーバーに送る場合）」



スキャン to FTP を使用するには、FTP サーバープロファイルの設定が必要です。

1 ウェブブラウザーを起動し、アドレス欄に、「http://xxx.xxx.xxx.xxx/」と入力します。

「xxx.xxx.xxx.xxx」はご使用になる本製品の IP アドレスです。
例）本製品の IP アドレスが 192.168.1.3 の場合
ウェブブラウザーのアドレス欄に「http://192.168.1.3/」と入力します。

2 ［スキャン］タブー［FTP/ ネットワークファイル　スキャン］をクリックします。

3 スキャン to FTP を設定するために使用したいプロファイル（1 ～ 5）を選択します。

FTP サーバープロファイル名としてすでにある 7 つのファイル名に加えて、［オリジナルファイル名登録］で作成した 2 つのファイル名を保存できます（最大 15 文字を入力できます）。

4 ［OK］をクリックします。

5 ［スキャン］タブー［FTP/ ネットワークファイル　スキャンプロファイル］をクリックして、3 で選んだプロファイルの詳しい設定を行います。

必要に応じて次の設定を変更できます。

- プロファイル名（最大 15 文字まで）
- サーバーアドレス
- ユーザー名
- パスワード
- 転送先フォルダ
- ファイル名
- 画質
- ファイルタイプ
- 読み取り原稿サイズ
- パッシブモード
- ポート番号

FTP サーバーとファイアウォールの設定によって、パッシブモードをオフまたはオンに設定することができます。また、FTP サーバーにアクセスするためのポート番号を変更することもできます（ポート番号のお買い上げ時の設定は 21 です）。
これらの設定は、ほとんど変更することなく使用することが可能です。

6 設定を完了したら、［OK］をクリックします。

# ウェブブラウザーを使用して、スキャン to ネットワークの設定を変更する

スキャン to ネットワークは、スキャンした文書をインターネット上もしくは、ローカルネットワーク上の CIFS サーバーの共有フォルダへ直接送信します。
スキャン to ネットワークについて詳しくは、下記をご覧ください。
⇒ユーザーズガイド パソコン活用編「本製品でスキャンする（サーバーに送る場合）」




ウェブブラウザーを起動して、本製品のウェブページにアクセスし、［ネットワーク］タブ - ［プロトコル］をクリックします。［CIFS］のチェックボックスにチェックを入れると、CIFS プロトコルを使用できます。CIFS サーバーについて詳しくは、「ユーザーズガイド ネットワーク設定　知識編」をご覧ください。

**1** **ウェブブラウザーを起動し、アドレス欄に、「http://xxx.xxx.xxx.xxx/」と入力します。**

「xxx.xxx.xxx.xxx」はご使用になる本製品の IP アドレスです。
例）本製品の IP アドレスが 192.168.1.3 の場合
ウェブブラウザーのアドレス欄に「http://192.168.1.3/」と入力します。

**2** **［スキャン］タブー［FTP/ ネットワークファイル　スキャン］をクリックします。**

**3** **スキャン to ネットワークを設定するために使用したいプロファイル（1 ～ 5）を選択します。**

スキャン to ネットワークプロファイル名としてすでにある 7 つのファイル名に加えて、［オリジナルファイル名登録］で作成した 2 つのファイル名を保存できます（最大 15 文字を入力できます）。

**4** **［OK］をクリックします。**

**5** **［スキャン］タブー［FTP/ ネットワークファイル　スキャンプロファイル］をクリックして、3 で選んだプロファイルの詳しい設定を行います。**

必要に応じて次の設定を変更できます。

- プロファイル名（最大 15 文字まで）
- サーバーアドレス
- 転送先フォルダ
- ファイル名
- 画質
- ファイルタイプ
- 読み取り原稿サイズ
- 接続時にパスワード認証を行う
- 接続パスワード
- ユーザー名
- パスワード

**6** **設定を完了したら、［OK］をクリックします。**

# 第 7 章
# インターネットファクス機能を使う (MFC-J6710CDW/J6910CDW のみ )

# インターネットファクス機能とは

インターネットファクスは、インターネットを使ってファクスメッセージを送受信する機能です。本製品からインターネットファクスでメッセージを送信するときは、TIFF-F 形式の添付ファイルとして E メール（MIME 形式）で送信されます。
コンピューターを使って受信する場合、Windows® ユーザーの方は TIFF-F を閲覧するためビューワーとして Microsoft® Imaging などをお使いください。Windows® ユーザーの方はその他、TIFF-F が閲覧可能なビューワーをご使用ください。Macintosh ユーザーの方も TIFF-F 形式が閲覧可能なビューワーが別途必要となります。



（MFC-J6710CDW の場合）インターネットファクス機能をお使いになる場合は、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター http://solutions.brother.co.jp/）からソフトウェアをダウンロードしてください。




**インターネットファクス機能で送受信できるものは A4 サイズ、モノクロ、TIFF-F 形式のファイルのみです。A4 サイズ以上の用紙をセットした場合は、自動的に A4 サイズに縮小して送信します。**

### ●受信した E メールやファクスを転送する

受信した E メールやファクスを他の E メールアドレスやファクス機器へ転送できます。この機能について詳しくは、「受信した E メールやファクスを転送する」P.7-5 をご覧ください。

### ●リレー配信する

インターネットファクスで受信した文書を、通常の電話回線を使用して他のファクス機器へ再送信することができます。長距離間の通信をインターネット回線で行い、近距離間を電話回線で行うことにより、通信費を節約することができます。この機能について詳しくは、「リレー配信する」P.7-5 をご覧ください。

## インターネットファクスについて

インターネットファクス送受信は一般的な電話を使用したファクス通信とは下記の点で異なります。

- 受信者の場所、LAN の構造やネットワークの混み具合によりエラーメールが返される時に通常より時間がかかる事があります（通常は 20 ～ 30 秒）。
- 重要機密などの情報の送信についてはインターネットを通じたファクス文書のやり取りよりも一般電話回線を使用したファクス通信をお勧めします。
- 受信側のメールシステムが MIME 形式に対応していない場合はインターネットファクス文書を受信できません。その場合、サーバーメッセージの返信も無いことがあります。
- 送信原稿のサイズが大きすぎる場合、通信が正常に終了しないことがあります。
- 受信した E メールのフォントやフォントサイズを変更することはできません。

# インターネットファクスを使うには

インターネットファクスをご使用いただく前に、本製品のネットワークおよびメールサーバーの設定をしておく必要があります。操作パネル、リモートセットアップ、ウェブブラウザー、BRAdmin Professional から設定できます。

- E メールアドレスを設定します。
- SMTP、POP3 サーバーアドレスを設定します。
- アカウント名およびパスワードを設定します。

設定がわからない場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

## インターネットファクスを送信する

### インターネットファクスを送信する前に

インターネットファクスを送信する前に、必要に応じて、次の項目を操作パネル、リモートセットアップまたはウェブブラウザーから設定できます。

- タイトル
- サイズ制限
- 受信確認要求（⇒「メール送信設定」P.5-8）

### インターネットファクスを送信する

インターネットファクスの送信方法は、通常のファクス送信の操作と同様です。（ファクス送信について詳しくは、ユーザーズガイド 基本編「ファクスを送る」をご覧ください。）
ワンタッチダイヤルや電話帳に送信先のアドレスを登録してある場合は、本製品で文書を読み取って送信できます。解像度を変更したい場合は、【ファクス画質】で設定を変更してから、ワンタッチダイヤルや電話帳で送信先を選び、カラースタート または モノクロスタート を押します。（【スーパーファイン】はインターネットファクスに対応していません。）



- 宛先の E メールアドレスを手動で入力する場合は、送信する文書を読み取ってから、シフト と 1 を同時に押す（MFC-J6710CDW）、または を押して（MFC-J6910CDW）、E メールアドレス入力画面に切り替えます。文字の入力方法について詳しくは、ユーザーズガイド 基本編「文字の入力方法」をご覧ください。
- E メールアドレスは、ウェブブラウザーやリモートセットアップからも登録できます。

文書をスキャンすると、本製品は自動的に SMTP サーバーへ接続して指定された宛先に送信します。送信を中止したい場合は、停止/終了 を押します。



お使いの環境によっては、送信原稿のサイズが大きすぎる場合、通信が正常に終了しないことがあります。【サイズ制限】を【オン】に設定しておくと、1MB を超えるサイズの E メールを送信したときに【メモリーがいっぱいです】と表示され、E メールの送信が中止されてエラーレポートが出力されます。サイズ制限を【オン】にしたときは、ページを分割して送信するなど、1 通の E メールを 1MB 以下にする必要があります。

# インターネットファクスを受信する

## インターネットファクスを受信する前に

インターネットファクスを受信する前に、必要に応じて、次の項目を操作パネル、リモートセットアップまたはウェブブラウザーから設定できます。

- 自動受信（ポーリング間隔）
- ヘッダー印刷
- エラーメール削除
- 受信確認（⇒「メール受信設定」P.5-7）

## インターネットファクスを受信する

E メールを受信するには 2 通りの方法があります。

- POP3 サーバーで自動受信
- POP3 サーバーで手動受信

本製品は POP3 サーバーへメールが届いているかチェックを行います。そのチェック間隔を設定したり（ポーリング間隔）、シフト ▼ と モノクロ スタート または スタート カラー を押して、手動でチェックを行うこともできます。

インターネットファクスを受信した場合は、液晶画面に何通インターネットファクスを受信したか表示されます。受信するデータがない場合は、【メールはありませんでした】と表示されます。




- インターネットファクスを受信した時に印刷用紙がセットされていない場合は、本製品のメモリーに記憶されます。印刷用紙をセットすると自動的に印刷されます。
- インターネットファクスが通常に受信できなかった場合は、エラーレポートに次のように出力され、【エラーメール削除】が【オン】に設定されている場合は、サーバーからデータが削除されます。
  －テキスト形式でない、TIFF-F 形式でない場合
  「ATTACHED FILE FORMAT NOT SUPPORTED. FILE NAME:XXXXXX.doc」
  －サイズが大きすぎる場合
  「E-MAIL FILE TOO LARGE」

## インターネットファクスをパソコンで受信する

パソコンでインターネットファクスを受信した場合は、インターネットファクスで受信したことを示すタイトル表示のメールに添付されます。




文書を送付してもらう相手のパソコンが、Windows® 2000/XP、Windows Server® 2003/2008、Windows Vista®、Windows® 7 以外の OS をお使いの場合は、TIFF-F 形式を閲覧することができるソフトウェアをインストールする必要があります。

# インターネットファクスのその他の機能

## 受信した E メールやファクスを転送する

受信した E メールやファクスを他の E メールアドレスやファクス機器へ転送できます。
受信したメッセージをパソコンやインターネットファクスへ E メールとして転送できます。
通常の電話回線を通じて他の本製品へ転送することもできます。
本製品の操作パネルやウェブブラウザーで設定できます。
ファクス転送について詳しくは、下記をご覧ください。
⇒ユーザーズガイド 応用編「ファクスの便利な受けかた」－「ファクスを転送する」
⇒ユーザーズガイド 応用編「ファクスの便利な受けかた」－「ファクスを E メールアドレスに自動転送する」

## リレー配信する

インターネットファクス（インターネット回線）で受信した文書を、通常の電話回線を使用して他のファクス機器に再送信することをリレー配信機能と呼びます。

### リレー配信の前に

リレー配信をする前に、次の項目を操作パネル、リモートセットアップまたはウェブブラウザーから設定してください。

- リレー許可
  【リレー許可】を【オン】に設定してください。
- 許可ドメイン
  本製品を経由して転送が可能なドメイン名を登録します。登録されていないドメインからのインターネットファクスは転送できません。
- リレーレポート




- ドメイン名は信頼できるものを登録してください。
- ドメイン名は、5 件まで登録できます。
- ドメイン名とは、一般的に「taro@brother.co.jp」という E メールアドレスの場合、@より後の「brother.co.jp」の部分を指しています。

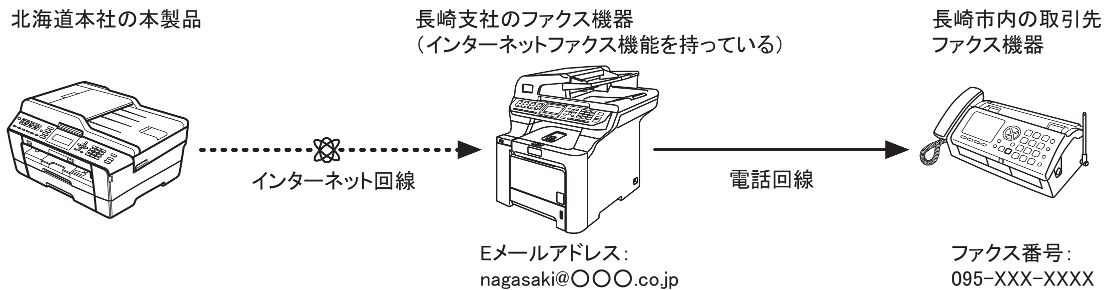
### リレー配信の方法

本製品のリレー配信には下記の 2 種類があります。

- 本製品から文書をインターネットファクス（インターネット回線）で他の機器に送り、そこから電話回線で他のファクス機器に送信させる場合
  ⇒「本製品から送り、他の機器に中継させる場合」P.7-6
- 本製品がインターネットファクス（インターネット回線）で受信した文書を他のファクス機器に電話回線で送信する場合
  ⇒「インターネットファクスで受信した文書を本製品から他のファクス機器に送信する場合」P.7-10

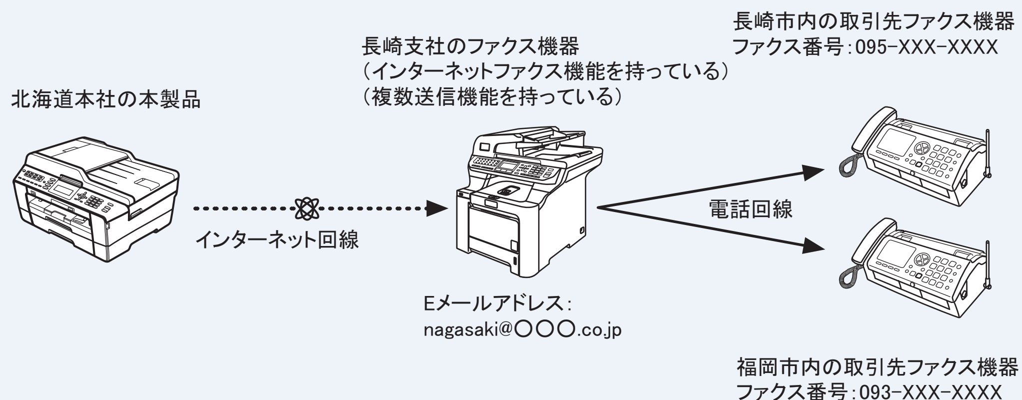
## 本製品から送り、他の機器に中継させる場合

例えば、北海道本社の本製品から、長崎支社にあるインターネットファクス機能を持つファクス機器を経由し、長崎市内にある取引先のファクス機器にファクス送信する場合のリレー配信方法を説明します。






複数の送信先にファクス送信させることができます。その場合は、長崎支社のインターネットファクス機能を持つファクス機器が、本製品から発信した指示に従い、複数の宛先に送信できる機能を持っていることが必要です。最大複数送信数は、ファクス機器の取扱説明書でご確認ください。





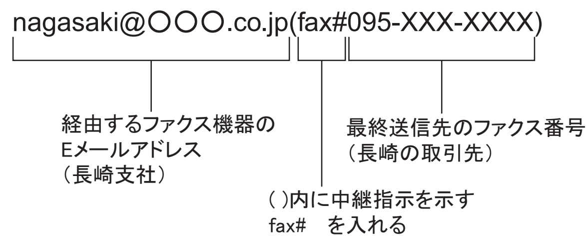

経由する長崎支社のファクス機器がインターネットファクス機能を持っている必要があります。複数個所に送信させる場合は、さらに複数同時送信機能を持っている必要があります。

## 宛先入力の形式を確認する

あらかじめ、経由する長崎支社のインターネットファクス機能を持つファクス機器が、どのような使用環境にあるのかを確認してください。POP 受信サーバーが構築されている場合と構築されていない場合で、本製品の送信宛先入力の形式が異なります。

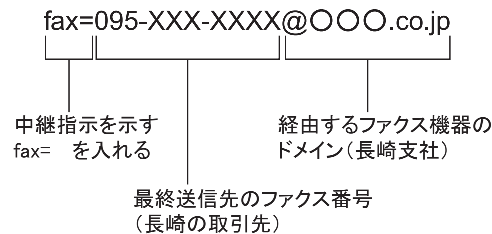
### POP 受信サーバーが構築されているとき

比較的、大規模なオフィスなどで、POP 受信サーバーが構築されている環境の機器に中継させる場合は、本製品の E メールアドレス入力画面で下記のように入力し、送信します。




### POP 受信サーバーが構築されていないとき

比較的、小規模なオフィスなどで、POP 受信サーバーが構築されていない環境の機器に中継させる場合は、本製品の E メールアドレス入力画面で下記のように入力し、送信します。



## 本製品から送信する（MFC-J6710CDW の場合）

**1** 原稿をセットする

**2** ファクス を押し、/ で【同報送信】を選び、OK を押す

**3** / で【送信方法】を選び、/ で【E メール　アドレス】を選び、OK を押す

**4** / で【番号追加】を選び、シフト を押しながら 3 DEF を押して、小文字入力に切り替える

**5** ダイヤルボタンで E メールアドレスを入力し、OK を押す

例）POP 受信サーバーが構築されているとき
nagasaki@ ○○○ .co.jp（fax#095-XXX-XXXX）
1 台のみに送信する場合は、9 へ進みます。

**6** 複数のリレー配信先を入力するには、/ で【E メール　アドレス】を選び、OK を押す

**7** / で【番号追加】を選び、シフト を押しながら 3 DEF を押して、小文字入力に切り替える

**8** ダイヤルボタンで E メールアドレスを入力し、OK を押す

例）POP 受信サーバーが構築されているとき
nagasaki@ ○○○ .co.jp（fax#093-XXX-XXXX）

**9** すべての配信先を入力したら / で【確定】を選び、OK を押す

**10** モノクロ スタート を押して送信する




- 入力する E メールアドレスの形式は、長崎支社のインターネットファクス機能を持つファクス機器が使用されている環境により異なります。
  ⇒「宛先入力の形式を確認する」P.7-7
- 頻繁にリレー配信機能を使用する場合には、決まった E メールアドレスの形式で電話帳に登録しておくこともできます。
  登録してある場合は、4 、7 で【電話帳】を選び、電話帳から送信先を選んで、OK を押します。

## 本製品から送信する（MFC-J6910CDW の場合）

1 原稿をセットする

2 ファクス を押す

3 【◀】/【▶】を押して画面をスクロールさせ、【同報送信】を押す

4 【番号追加】を押す

5 【📞】を押して、E メールアドレス入力画面に切り替える

6 画面に表示されているテンキーで E メールアドレスを入力し、【OK】を押す

例）POP 受信サーバーが構築されているとき
nagasaki@ ○○○ .co.jp（fax#095-XXX-XXXX）
1 台のみに送信する場合は、8 へ進みます。

7 複数のリレー配信先を入力するには、4 ～ 6 を繰り返して、E メールアドレスを入力する

例）POP 受信サーバーが構築されているとき
nagasaki@ ○○○ .co.jp（fax#093-XXX-XXXX）

8 すべての送信先を入力したら、【OK】を押す

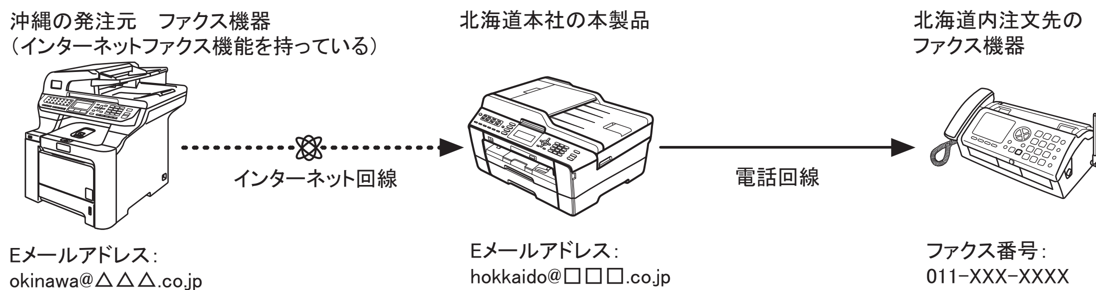
9 モノクロスタート を押して送信する




- 入力する E メールアドレスの形式は、長崎支社のインターネットファクス機能を持つファクス機器が使用されている環境により異なります。
  ⇒「宛先入力の形式を確認する」P.7-7
- 頻繁にリレー配信機能を使用する場合には、決まった E メールアドレスの形式で電話帳に登録しておくこともできます。登録してある場合は、4 で【電話帳】を押し、電話帳から送信先を選んで、【OK】を押します。

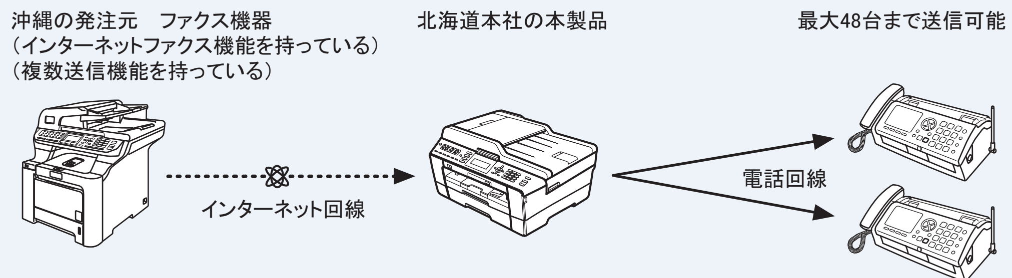
# インターネットファクスで受信した文書を本製品から他のファクス機器に送信する場合

例えば、沖縄の発注元から送信されたインターネットファクス文書を北海道本社の本製品で受信し、北海道内にある注文先のファクス機器にファクス送信する場合のリレー配信方法を説明します。






- 本製品から最大 48 台の送信先にファクス送信することができます。その場合は、発信元のファクス機器に複数の宛先を指定して送信できる機能（同報送信機能）がある必要があります。
  複数宛先入力の方法について詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。




- パソコンから送信する場合については、「パソコンからリレー配信を行う」P.7-12をご覧ください。



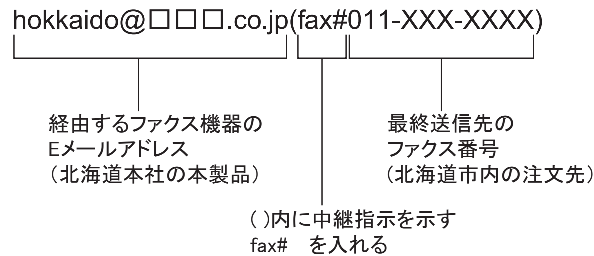
- 本製品を中継点としてリレー配信を行う場合には、あらかじめ、下記の設定を行ってください。
- リレー配信を行う発信元として、沖縄の発注元製品のドメイン名を本製品に登録してください。この場合のドメイン名とは「△△△ .co.jp」です。ドメイン名が登録されていないメールを受信しても本製品はリレー配信を行いません。（ドメイン名は 5 つまで登録できます。）
- ネットワークメニューで【リレー許可】を【オン】にしてください。【オフ】になっていると本製品はリレー配信を行いません。

## 宛先入力の形式を確認する

本製品を中継点としてリレー配信を行う場合には、あらかじめ、本製品の使用環境を沖縄の発注元に知らせておく必要があります。本製品の使用環境が POP 受信サーバーが構築されている場合と構築されていない場合で、宛先入力の形式が異なります。

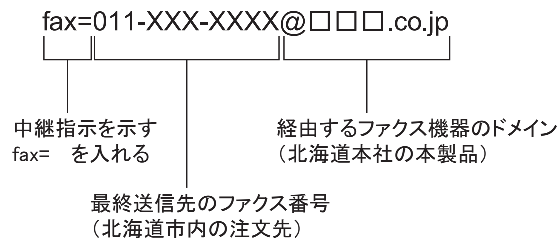
### POP 受信サーバーが構築されているとき

沖縄の発注元は、本製品に対して下記のような E メールアドレス形式で送信します。



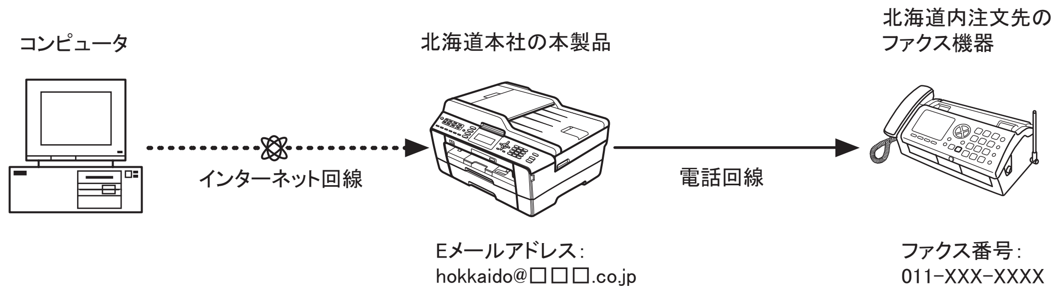

### POP 受信サーバーが構築されていないとき

沖縄の発注元は、本製品に対して下記のような E メールアドレス形式で送信します。



## パソコンからリレー配信を行う

パソコンから北海道本社にある本製品に E メールを送信し、リレー配信機能を使用することもできます。リレー配信先のファクス番号を入力する方法は、お使いのメールソフトにより異なります。




また、ソフトウエアやそのバージョンによっては、配信先のファクス番号を含んだ E メールアドレスの送信 / 同報に対応していない場合があります。

- Outlook Express
- Netscape Communicator 4.5
- Eudora Ver 4.x
- Outlook 97/98/2000/2002/2003

上記のメールソフトについては、送信先アドレスの欄やアドレス帳のメンバー作成時のアドレス欄に下記のように入力してください。

例）POP 受信サーバーが構築されているとき

hokkaido@ □□□ .co.jp(fax#011-XXX-XXXX)

メールソフトによっては上記のとおり入力して［Enter］キーを押すと［fax#011-XXX-XXXX］と表示されることがありますが、正しく送信できます。

リレー配信機能はネットワーク PC-FAX からも使用できます。（Windows® のみ）



- メールソフトに入力する E メールアドレスの形式は、北海道本社の本製品の使用環境により異なります。
  ⇒「宛先入力の形式を確認する」P.7-11
- 添付文書をリレー配信する場合、ITU-T 勧告による I-FAX フォーマット「T.37」規格に準拠したファイルを添付してください。

# 確認メールについて

インターネットファクスを送信したとき、受信した相手機から受信確認メッセージを受け取ったり、本製品がインターネットファクスを受信したことを送信者に通知するよう設定できます。これらの設定は、【メール送信設定】と【メール受信設定】で行います。

## メール送信設定

【メール送信設定】の【受信確認要求】を【オン】または【オフ】にします。【オン】に設定した場合は、送信する文書に情報を追加して送信します。その情報を MDM と呼び、受信した相手機から受信確認メッセージを受け取ることができます。受信側の機器が MDN（受信確認リクエスト）対応機能で、その設定が有効になっている必要があります。

## メール受信設定

本製品がインターネットファクスを受信したことを送信者に通知するよう設定できます。【メール受信設定】の【受信確認】を設定します。この設定には 3 通りあります。

- 【オン】：受信したすべてのインターネットファクスに対して送信元に受信確認を送付します。
- 【MDN】：MDN（受信確認リクエスト）機能を使用して送られてきたインターネットファクスの送信元に対してのみ受信確認を送付します。
- 【オフ】：受信確認の送付を行いません。




確認メールを確実に機能させるために、必ず次の設定を行ってください。

- 送信の場合
  - 【メール送信設定】の【受信確認要求】を【オン】に設定する。
  - 【メール受信設定】の【ヘッダ印刷】を【全て】または【ヘッダのみ】に設定する。
- 受信の場合
  - 【メール受信設定】の【受信確認】を【オン】にする。

# エラーメールについて

インターネットファクス送信時にエラーが発生した場合は、メールサーバーからエラーメッセージが送信され、本製品でエラーメッセージが出力されます。また、インターネットファクス受信時にエラーが発生した場合も、同様に出力されます（例：「送信されたメッセージは TIFF-F 形式ではありませんでした」）。

エラーメールを確実に受け取るために、必ず、【メール受信設定】の【ヘッダ印刷】を【全て】または【ヘッダのみ】に設定してください。

# 第 8 章
# セキュリティー機能を使う

# 第 8 章 セキュリティー機能を使う

## 概要

パソコンをネットワークに接続していると、悪意のある第三者によって不正にネットワークにアクセスされてデータや機密情報が読み取られてしまうなどの危険性があります。
本製品は、最新のネットワークセキュリティーおよび暗号化プロトコルを使用して、機器への不正アクセスを防止する機能を搭載しています。
この章では、本製品がサポートしているセキュリティープロトコルやその設定方法について説明します。

次のセキュリティー機能を設定できます。

- E メールを安全に送信する（MFC-J6710CDW/J6910CDW のみ）
  ⇒「E メールを安全に送信する（MFC-J6710CDW/J6910CDW のみ）」P.8-3
- BRAdmin Professional を使ってセキュリティー管理をする （Windows® のみ）
  ⇒「BRAdmin Professional でセキュリティー管理をする（Windows® のみ）」P.8-5




- FTP、TFTP プロトコルを無効にしてください。これらのプロトコルを使って機器にアクセスすることは、セキュリティー上安全ではありません。
  ⇒「ウェブブラウザーを使用して本製品を設定する」P.6-3
- FTP プロトコルを無効にすると、スキャン to FTP 機能は使用できません。

# E メールを安全に送信する（MFC-J6710CDW/J6910CDW のみ）

## ウェブブラウザーを使用して設定する

E メールを安全に送信するために、ウェブブラウザーでユーザー認証を設定することができます。

**1** ウェブブラウザーを起動します。

**2** ウェブブラウザーのアドレス欄に 、「http://xxx.xxx.xxx.xxx/」と入力します。

「xxx.xxx.xxx.xxx」はご使用になる本製品の IP アドレスです。
例）本製品の IP アドレスが 192.168.1.2 の場合
ウェブブラウザーのアドレス欄に「http://192.168.1.2」と入力します。

**3** ［ログイン］欄にパスワードを入力して、をクリックします。

メモ　あらかじめ、管理者パスワードを設定していない場合は、この操作は不要です。

**4** ［ネットワーク］タブ－［プロトコル］をクリックします。

**5** ［POP3/SMTP］の［詳細設定］をクリックして、［POP3/SMTP］が［有効］になっているかを確認してください。

POP3/SMTP の設定を変更することもできます。

メモ
- 詳細については、ウェブブラウザーのヘルプをご覧ください。
- 設定後にメールをテスト送信することでも設定が正しいかどうか確認できます。



**6** 設定を変更した場合は、［OK］をクリックします。

テストメール送受信設定画面が表示されます。設定の確認を行いたい場合は、画面の指示に従ってください。

## ユーザー認証付 E メールの送信

本製品は、ユーザー認証を必要とする SMTP サーバーを経由して、E メール送信するための「POP before SMTP」または「SMTP-AUTH」認証方法をサポートしています。これらの方法は、無許可のユーザーがメールサーバーに不正アクセスしたり、E メールデータが盗聴されることを防ぎます。ウェブブラウザー、BRAdmin Professional を使用して設定することができます。E メールの送信、インターネットファクス送信のために、「POP before SMTP」または「SMTP-AUTH」の認証方法を使用することができます。

### E メールサーバーを設定する

SMTP 認証方法を E メールサーバーの認証方法に設定する必要があります。
E メールサーバーの設定については、ネットワーク管理者、または ISP（インターネットサービスプロバイダー）にお問い合わせください。
SMTP 認証方式を有効にするには、［送信メールサーバー（SMTP）認証方式］の［SMTP-ATUTH］にチェックを入れてください。

### SMTP を設定する

- ウェブブラウザーで SMTP ポート番号も変更できます。これは、ご使用の ISP（インターネットサービスプロバイダー）が「Outbound Port 25 Blocking（OP25B）」サービスを実施している場合に便利です。
- SMTP ポート番号を ISP が SMTP サーバーで使用している特有の番号（例：ポート 587）に変更することで、SMTP サーバー経由で E メールを送信できるようになります。
- 「POP before SMTP」と「SMTP-AUTH」の両方を使える場合は、［送信メールサーバー（SMTP）認証方式］の［SMTP-AUTH］を選択することをお勧めします。
- ［送信メールサーバー（SMTP）認証方式］を［POP before SMTP］に設定すると、受信メールサーバー（POP3）の設定が必要となります。また、［APOP を使用］をチェックして、APOP 方式を使用することもできます。

# BRAdmin Professional でセキュリティー管理をする（Windows® のみ）

## BRAdmin Professional を使って管理する場合

### ●最新のものをご使用ください

BRAdmin Professional の最新バージョンをご使用されることをお勧めします。
BRAdmin Professional は、サポートサイト（ブラザーソリューションセンター http://solutions.brother.co.jp/）からダウンロードできます。旧バージョン *1 の BRAdmin Professional を使ってブラザー機器を管理すると、ユーザー認証においてセキュリティー上安全ではありません。

### ●プリントサーバーが混在している場合

従来のプリントサーバー *2 と本製品のプリントサーバーが混在したグループを BRAdmin Professional で管理している場合は、グループごとに異なるパスワードを使うことをお勧めします。これによって本製品が安全に管理されます。

*1 Ver.2.80 以前の BRAdmin Professional、Ver. 1.10 以前の Macintosh 用 BRAdmin Light
*2 NC-2000 シリーズ、NC-2100p、NC-3100h、NC-3100s、NC-4100h、NC-5100h、NC-5200h、NC-6100h、NC-6200h、NC-6300h、NC-6400h、NC-8000、NC-100h、NC-110h、NC-120w、NC-130h、NC-140w、NC-8100h、NC-9100h、NC-7100w、NC-7200w、NC-2200w

# 第 9 章
# ネットワーク機能を使う

# 第 9 章 ネットワーク機能を使う

## ネットワークスキャン機能を使う

### ネットワークスキャン機能とは

本製品でスキャンしたデータを、ネットワーク上のパソコンへ送ったり保存したりできる機能です。



あらかじめ本製品の TCP/IP の設定が必要です。

### ネットワークスキャンの設定



ネットワークスキャンを使用するときは、ネットワーク上の 1 台の本製品と最大 25 台のパソコンを接続することができます。例えば、30 台のパソコンが同時に本製品に接続しようとした場合は、5 台のパソコンは本製品の画面に表示されません。

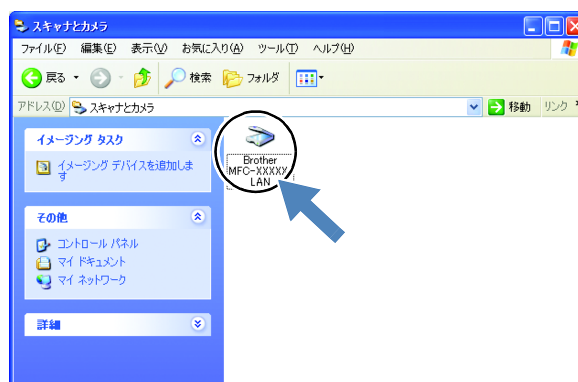
#### Windows® の場合

本製品のスキャンボタンを押してネットワークスキャン機能を使う場合は、スキャンしたデータを保存するパソコンの名称（コンピューター名）をあらかじめ登録する必要があります。初期設定では、スキャンしたデータは別冊の「かんたん設置ガイド」に記載されているインストール作業を行ったパソコンに保存されます。このまま使用する場合は設定する必要はありません。
IP アドレスを変更したり、登録したパソコンの名前を変える場合には、次の手順で設定してください。
ネットワークスキャン機能の詳細な説明については、下記をご覧ください。
⇒ユーザーズガイド パソコン活用編「Windows® 編」－「スキャナーとして使う前に」

**1** コントロールパネルの［スキャナとカメラ］を表示します。

- Windows® 7 の場合
  ［スタート］メニューから［すべてのプログラム］－［Brother］－［(モデル名)］－［スキャナー設定］－［スキャナーとカメラ］をクリックします。
- Windows Vista® の場合
  ［スタート］メニューから［コントロールパネル］－［ハードウェアとサウンド］－［スキャナとカメラ］をクリックします。
- Windows® XP の場合
  ［スタート］メニューから［コントロールパネル］－［プリンタとその他のハードウェア］－［スキャナとカメラ］をクリックします。
- Windows® 2000 の場合
  ［スタート］メニューから［設定］－［コントロールパネル］－［スキャナとカメラ］をクリックします。

**2** 接続している本製品のモデル名をクリックして選びます。



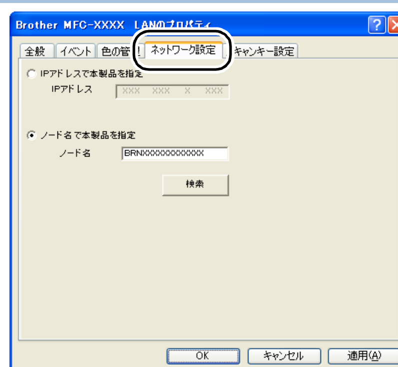
**3** ［プロパティ］ダイアログボックスを表示します。

- Windows® 7、Windows Vista® の場合
  ［プロパティ］をクリックします。
- Windows® XP、Windows® 2000 の場合
  右クリックして表示されるメニューから［プロパティ］を選びます。



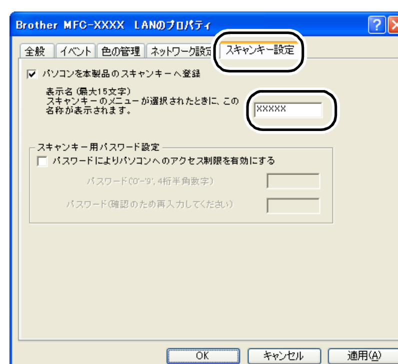

**4** ［ネットワーク設定］タブをクリックし、項目を設定します。

- IP アドレスを変更する場合は、新しい IP アドレスを入力します。
- 本製品の名称を変更する場合は、［ノード名］に新しい名称を入力します。
- 使用できる機器の一覧を検索してから設定する場合は、［検索］をクリックして該当する製品名を探すこともできます。




**5** ［スキャンキー設定］タブをクリックし、データを保存するパソコンの名称を入力します。

初期設定はお使いのパソコンの名称が表示されています。
操作パネルのスキャンボタンを操作するときに、本製品の画面に表示されるこのパソコンの名称です。パソコンの名称は、マイコンピュータのプロパティ画面で確認できます。



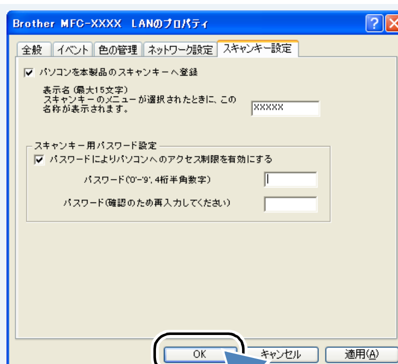

**6** ［OK］をクリックします。

設定が完了しました。

**メモ**

**スキャンした画像データの保存に制限をつけたいときは**

スキャンした画像データをパソコンに保存するとき、パスワードを入力しないと保存できないように設定できます。
［スキャンキー用パスワード設定］で 4 桁の数字をパスワードとして登録します。



## Macintosh の場合

本製品のスキャンボタンを押してネットワークスキャン機能を使う場合は、あらかじめ受信する Macintosh で「スキャンボタンへの登録」設定が必要です。次の手順で設定してください。
ネットワークスキャン機能の詳細な説明については、下記をご覧ください。
⇒ユーザーズガイド パソコン活用編「Macintoch 編」－「スキャナーとして使う前に」

**1** [Macintosh HD] － [ライブラリ] － [Printers] － [Brother] － [Utilities] － [DeviceSelector] の [デバイスセレクター] をダブルクリックする

[デバイスセレクター] 画面が表示されます。

**2** [ネットワーク] を選ぶ




**3** [パソコンを本製品のスキャンキーへ登録] をチェックして、[表示名] に Macintosh の名前を入力する




**4** 必要に応じて、項目を設定する

- 本製品が設定されていない場合または異なる製品を設定したい場合、[検索] をクリックして該当する製品名（mDNS サービス名）を選択します。
- 製品の IP アドレスを手動で入力して設定することもできます。



## ［OK］をクリックします。

設定が変更されます。

**スキャンした画像データの保存に制限をつけたいときは**

スキャンした画像データを Macintosh に保存するとき、パスワードを入力しないと保存できないように設定できます。

［パスワードによりパソコンへのアクセス制限を有効にする］をチェックして、4 桁の数字をパスワードとして登録します。



# ネットワーク PC-FAX 送信機能を使う

## ネットワーク PC-FAX 送信機能とは

PC-FAX 機能を利用すると、パソコン上のアプリケーションで作成したデータを、ネットワーク上の本製品からファクスとして送信できます。Windows® の場合は、送付書を添付して送ることもできます。
PC-FAX を使うときは、あらかじめ PC-FAX アドレス帳に相手先を登録しておくと、ファクス送信先を簡単に設定できます。Windows® の場合は、個人情報を登録しておくと、ファクスや送付書に自分の名前や電話番号を自動的に入れることができます。

## ネットワーク PC-FAX 送信機能を使う

Windows® の場合は、作成したデータのアプリケーションメニューから［印刷］を選び、プリンターを［Brother PC-FAX］に設定すると、PC-FAX ウィンドウが表示されます。
Macintosh の場合は、作成したデータのアプリケーションメニューから［プリント］を選び、プリントダイアログで［ファクス送信］を選ぶと PC-FAX 送信設定ウィンドウが表示されます。
このウィンドウで送信先などを設定します。



ファクスの送信手順やアドレス帳の使い方などについては、下記をご覧ください。
Windows® の場合⇒ユーザーズガイド パソコン活用編「PC-FAX を使う前に」
Macintosh の場合⇒ユーザーズガイド パソコン活用編「Macintosh からファクスを送る」

### ネットワーク PC-FAX 送信を行うポートを変更する（Windows® のみ）

別冊の「かんたん設置ガイド」に記載されているインストール作業を行ったパソコンで送信する場合は、本製品のポートが選択されています。このまま使用する場合は設定する必要はありません。
使用するポートを変更したい場合は、次の手順で設定してください。

**1 コントロールパネルのプリンターフォルダーを表示します。**

- Windows® 7 の場合
  ［スタート］メニューから［デバイスとプリンター］－［プリンターと FAX］の順にクリックします。
- Windows Vista® の場合
  ［スタート］メニューから［コントロールパネル］－［プリンタ］の順にクリックします。
- Windows® XP の場合
  ［スタート］メニューから［コントロールパネル］－［プリンタとその他のハードウェア］－［プリンタと FAX］をクリックします。
- Windows® 2000 の場合
  ［スタート］メニューから［設定］－［プリンタ］の順にクリックします。

**2 ［プロパティ］ダイアログボックスを表示します。**

- Windows® 7 の場合
  ［Brother PC-FAX］を選択し、右クリックして表示されるメニューから［プリンターのプロパティ］を選びます。
- Windows Vista®、Windows® XP、Windows® 2000 の場合
  ［Brother PC-FAX］を選択し、右クリックして表示されるメニューから［プロパティ］を選びます。

「Brother PC-FAX」は、ドライバーインストール時に同時にインストールされます。
ドライバーのインストール方法については、別冊の「かんたん設置ガイド」をご覧ください。

## 3 ［ポート］タブをクリックし、使用するポートを選びます。

複数台の MFC をご使用の場合は、ネットワーク PC-FAX に使用するポートをここで指定してください。わからない場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。




## 4 ［OK］をクリックします。

設定が完了しました。

# ネットワークリモートセットアップ機能を使う

## ネットワークリモートセットアップ機能とは

本製品の設定をネットワークに接続しているパソコンから変更したり、本製品の電話帳を編集できます。

### リモートセットアップを起動する



（Windows® の場合）
［スタート］メニューから［すべてのプログラム（プログラム）］－［Brother］－［モデル名］－［リモートセットアップ］の順に選びます。
（Macintosh の場合）
［Macintosh HD］－［ライブラリ］－［Printers］－［Brother］－［Utilities］から［Remote Setup］アイコンをダブルクリックします。

接続している本製品から設定内容をダウンロードします。ダウンロードが終わると、リモートセットアップのダイアログボックスが表示されます。

詳細な説明については、下記をご覧ください。

Windows® の場合⇒ユーザーズガイド パソコン活用編「Windows® 編」－「リモートセットアップを利用する」

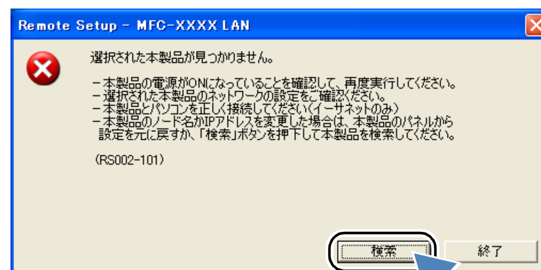
Macintosh の場合⇒ユーザーズガイド パソコン活用編「Macintosh 編」－「リモートセットアップを利用する」

### 本製品との接続に失敗した場合

**● Windows® の場合**



エラーメッセージの［検索］をクリックします。



2 表示される機器の一覧から、設定を変更する機器を選び、［OK］をクリックします。
選択した機器への接続を開始します。
再度機器を検索する場合は、［検索］をクリックしてください。







**表示される一覧に、接続先の機器が表示されない場合**
［手動設定］をクリックして表示されるダイアログボックスで、接続先の IP アドレスまたはノード名を入力して設定してください。

## Macintosh の場合

1 ［Macintosh HD］ －［ライブラリ］ －［Printers］ －［Brother］ －［Utilities］ －［Device Selector］の［デバイスセレクター］をダブルクリックします。

2 ［ネットワーク］を選びます。




3 ［検索］をクリックします。

4 表示される機器の一覧から、接続する機器を選び、［OK］をクリックします。
選択した機器への接続を開始します。
再度機器を検索する場合は、［検索］をクリックしてください。

# 第 10 章
# 困ったときは（トラブル対処方法）

# 第 10 章 困ったときは（トラブル対処方法）

この章では、ネットワークに関してトラブルが発生したときの対応方法について説明しています。
該当する問題のページをご覧ください。



## 無線 LAN アクセスポイントに接続できない

1）次の項目を確認してください。

### ●無線 LAN アクセスポイントと、本製品が離れ過ぎていませんか？間に障害物がありませんか？

本製品を見通しの良い場所へ移動させたり、できるだけ無線 **LAN** アクセスポイントに近づけてください。また、無線 **LAN** 設定時は **1m** 程度に近づけてお試しください。

### ●近くに無線 LAN に影響を及ぼすものはありませんか？

本製品の近くに、ほかの無線 **LAN** アクセスポイントやパソコン、短距離無線通信対応機器、電子レンジ、デジタルコードレス電話がある場合は離してください。

2）次の場合は、お使いのブロードバンドルーターなどのメーカーにお問い合わせください。

### ●無線 LAN アクセスポイントが正常に動作していますか？

無線 **LAN** を内蔵したパソコンでインターネットに接続できるかお試しください。

### ●アクセス制限を設定していませんか？

無線 **LAN** アクセスポイントの **MAC** アドレスフィルタリング機能を使用している場合は、本製品の **MAC** アドレスを無線 **LAN** アクセスポイントに登録して、通信を許可してください。




本製品の MAC アドレス（イーサネットアドレス）は、「MAC アドレス」P.5-5 でご確認ください。
有線 LAN と無線 LAN では、MAC アドレスが異なりますので注意してください。

### ● SSID（ネットワーク名）を表示させない設定にしていませんか？

無線 **LAN** アクセスポイントが **SSID** の隠ぺい（**SSID** ステルスモード）に設定されているときは、本製品から自動的に見つけることはできません。**SSID** を操作パネルまたはパソコンの画面から本製品に入力してください。

⇒「SSID が隠ぺいされている場合（液晶ディスプレーモデル）」P.3-7
⇒「SSID が隠ぺいされている場合（タッチパネルモデル）」P.3-11

### ●ネットワークキーの設定は正しいですか？

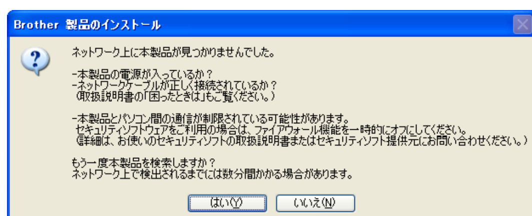
大文字、小文字は区別されます。認証されないときは、ネットワークキーが間違っていないか確認してください。

### ●近くで別の無線機器を使用していませんか？

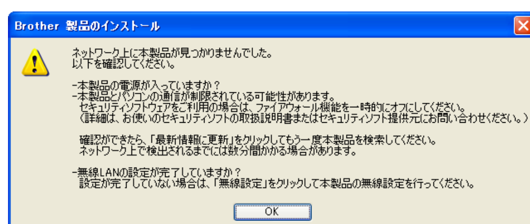
近隣などですでに別の無線機器が導入されているときは、電波干渉を避けるために無線 **LAN** アクセスポイントのチャンネル番号をできるだけ離して（推奨：チャンネル番号 **5** 以上）設定してください。

上記 1） 2）を行っても接続できない場合は、「ネットワークプリンター診断修復ツール」を使って確認してください。P.10-7

# インストール時、ネットワーク上に本製品が見つからない




有線 LAN 接続の場合




無線 LAN 接続の場合

次の項目を確認してください。

**1** お使いのパソコンから本製品までの接続機器が正常に稼働しているか確認してください。

⇒「ネットワーク機器に問題がないか調べるには」P.10-5

**2** セキュリティーソフトによってブロックされていないか確認してください。

⇒「セキュリティーソフトウェアについて」P.10-6

**3** 設定しているネットワーク情報（IP アドレス）に誤りがないか確認してください。

⇒「ネットワークの設定がうまくいかないときは」P.10-7

# 印刷 / スキャンできない

次の手順を確認してください。

## 1 お使いのパソコンから本製品までの接続ケーブルや接続機器が正常に動作しているか確認してください。

⇒「ネットワーク機器に問題がないか調べるには」P.10-5

## 2 セキュリティーソフトによってブロックされていないか確認してください。

⇒「セキュリティーソフトウェアについて」P.10-6

## 3 設定しているネットワーク情報（IP アドレス）に誤りがないかを確認します。

⇒「ネットワークの設定がうまくいかないときは」P.10-7

## 4 古い印刷ジョブを削除してください。

印刷に失敗した古いデータが残っていると印刷できない場合があります。

Windows® の場合は、プリンターフォルダー内のプリンターアイコンをダブルクリックし、［プリンタ］メニューから［すべてのドキュメントの取り消し］を選択してください。

プリンターフォルダーの表示方法
＜ Windows® 7 ＞
［スタート］メニューから［デバイスとプリンター］－［プリンターと FAX］の順にクリックします。

＜ Windows Vista® ＞
［スタート］－［コントロールパネル］－［ハードウェアとサウンド］－［プリンタ］の順にクリックします。

＜ Windows® XP ＞
［スタート］－［コントロールパネル］－［プリンタとその他のハードウェア］－［プリンタとFAX］の順にクリックします。

＜ Windows® 2000 ＞
［スタート］－［設定］－［プリンタ］の順にクリックします。

## 5 再度、印刷 / スキャンを試してください。

それでも印刷 / スキャンなどができない場合は、ドライバーをアンインストールして、別冊の「かんたん設置ガイド」に従って、再度インストールすることをお勧めします。




ドライバーのアンインストール方法については、別冊の「かんたん設置ガイド」をご覧ください。

# ネットワーク機器に問題がないか調べるには

お使いのパソコンから本製品までの接続機器が正常に稼動しているか次の項目を確認してください。

**●本製品の電源は入っていますか？**

電源を入れて、印刷できる状態であることを確認します。エラーメッセージが表示されている場合は、下記をご覧になり、エラーを解除してください。

⇒ユーザーズガイド 基本編「エラーメッセージ」

**●パソコンと無線 LAN アクセスポイントが、ネットワーク接続できていますか？**

お使いのパソコンで、インターネット閲覧や E メールなどの機能が正常に動作しているか確認してください。

**●接続方法を変更していませんか？**

接続方法を変更したときは、使用する接続方法に切り替えてください。

⇒「有線 LAN/ 無線 LAN を切り替える」P.5-10

**●有線 LAN の場合**

**接続したルーターやハブのランプは点灯 / 点滅していますか？**

一般的に、ルーター / ハブには接続状態を示すリンクランプがあり、点灯 / 点滅で接続状態を確認できます。本製品を接続している LAN ポートのリンクランプを確認します。

- ランプが点灯 / 点滅している場合：接続には問題ありません。
- ランプが点灯 / 点滅していない場合：接続に問題があるようです。
  次の項目を確認してください。

- **ルーターまたはハブなどの LAN ポートにパソコンと本製品が正しく接続されていますか？**
  接続されていない場合は正しく接続しなおしてください。
  接続にはストレートケーブルを使用してください。ほかのケーブルを使用している場合は、ストレートケーブルで接続しなおしてください。
- **ほかの LAN ポートに接続しなおしたり、ほかの LAN ケーブルに差し換えてお試しください。**
  それでも点灯 / 点滅しない場合は、ルーターまたは、ハブのメーカーにご相談ください。

**●無線 LAN の場合**

**「無線 LAN アクセスポイントに接続できない」の項目で当てはまるものはありませんか？**

⇒「無線 LAN アクセスポイントに接続できない」P.10-2

# セキュリティーソフトウェアについて

## ●インストール

市販のセキュリティーソフトでパーソナルファイアウォール機能が有効に設定されていると、インストール中にセキュリティーの許可を促す画面が表示されることがあります。この場合は許可をしてください。



セキュリティー許可を促す画面で、拒否をするとインストールの完了ができないことがあります。この場合は、セキュリティーソフトを再度インストールするか、セキュリティーソフト提供元にお問い合わせください。

## ●印刷やその他の機能をご利用になるとき

インストール完了後、印刷やその他の機能をご使用になるときに、セキュリティー許可を促す画面が表示されることがあります。この場合も許可をしてください。拒否をした場合の対処や印刷に使用するポートの通信許可の方法については、セキュリティーソフト提供元にお問い合わせください。

## ●本製品のネットワーク機能をご利用になるとき

次の機能をご利用いただく場合は、セキュリティー設定を行う必要があります。

- ネットワークスキャン
- ネットワーク PC-FAX 受信（Windows® のみ）

それぞれのセキュリティーソフトの設定で、次のポート番号を追加してください。
ポート番号の追加方法は、お使いのセキュリティーソフトの取扱説明書、またはセキュリティーソフト提供元にお問い合わせください。

| 機能 | 名称 * | ポート番号 | プロトコル（TCP/UDP） |
| --- | --- | --- | --- |
| ネットワークスキャン | 例）Brother NetScan | 54925 | UDP |
| ネットワーク PC-FAX 受信（Windows® のみ） | 例）Brother PC-FAX RX | 54926 | UDP |

*名称は任意です。

# ネットワークの設定がうまくいかないときは

設定しているネットワーク情報（IP アドレスおよびサブネットマスク）に誤りがないかどうかを確認します。
Windows® の場合は、ネットワーク接続で印刷ができない場合にネットワーク設定の確認画面が表示されます。画面の指示に従ってください。
問題が解決したら［完了］をクリックします。
問題が解決しない場合は、［次へ］をクリックし、画面の指示に従ってください。「ネットワークプリンター診断修復ツール」を使って自動で修復できるかどうかをお試しください。




Windows Vista® または、Windows® 7 をお使いの場合、ユーザーアカウント制御画面が表示されたら、［続行］または［はい］をクリックします。

操作が完了したら、「ネットワークプリンター診断修復ツール」の［テストページの印刷］をクリックします。テストページで製品のネットワーク接続状況を確認します。

Macintosh の場合は、お使いのパソコンと本製品の IP アドレスおよびサブネットマスクを手動で確認、再設定を行ってください。再設定について詳しくは、下記をご覧ください。
⇒かんたん設置ガイド「困ったときは」

## 「ネットワークプリンター診断修復ツール」を使用する（Windows® のみ）

「ネットワークプリンター診断修復ツール」でネットワークプリンターを診断し、その結果を表示、場合によっては問題を自動で修復します。




- Windows® 2000/XP/Windows Vista®/Windows® 7 を使用している場合は、管理者権限でネットワークにログインしてください。
- 本製品の電源を入れ、パソコンとネットワーク接続した状態で、次の手順を実行してください。

1 (Windows® 2000/XP/Windows Server® 2003/2008 の場合)
［スタート］メニューから［すべてのプログラム（プログラム)］－［アクセサリ］－［エクスプローラ］の順にクリックし、［マイコンピュータ］をクリックします。

(Windows Vista®/Windows® 7 の場合)
［スタート］メニューから［コンピューター］をクリックします。

2 ［ローカルディスク (C:)］－［Program Files (Program Files (x86))］－［Browny02］－［Brother］の順に選び、［BrotherNetTool.exe］をダブルクリックします。




Windows Vista® または、Windows® 7 をお使いの場合、ユーザーアカウント制御画面が表示されたら、［続行］または［はい］をクリックします。

3 画面の指示に従い、診断修復を行います。

「ネットワークプリンター診断修復ツール」を使っても改善しない場合は、ネットワーク管理者へご相談ください。

## パソコンのネットワーク情報を調べる

1 ［スタート］メニューから［すべてのプログラム（プログラム）］－［アクセサリ］を選び、［コマンドプロンプト］をクリックします。

2 「ipconfig」と入力し、Enter キーを押します。

3 「IP Address（IP アドレス）」と「Subnet Mask（サブネットマスク）」の行を探して、設定値を確認してください。

例）

```
コマンド プロンプト
Microsoft Windows XP [Version 5.1.2600]
(C) Copyright 1985-2001 Microsoft Corp.

J:¥>ipconfig

Windows IP Configuration


Ethernet adapter ローカル エリア接続:

        Connection-specific DNS Suffix  :
        IP Address. . . . . . . . . . . : 192.168.100.200
        Subnet Mask . . . . . . . . . . : 255.255.255.0
        Default Gateway . . . . . . . . : 192.168.254.254

J:¥>
```

ここを確認

4 「exit」と入力し、Enter キーを押して終了します。

# 本製品の IP アドレスの確認方法

1 ネットワークの設定内容リストを印刷して、「IP Address（IP アドレス）」と「Subnet Mask（サブネットマスク）」の行を探して、設定値を確認してください。
⇒「ネットワーク設定リストの出力」P.5-13

例）

ここを確認

```
<IP Settings >
IP Address          192.168.11.250    (set manually)
Subnet Mask         255.255.255.0
IP Gateway          192.168.100.200
Boot Method         STATIC
Boot Tries          3
IP Filter           Disabled
```

お使いのパソコンと本製品の **2** つの **IP** アドレスを確認してください。下図にあるように、ネットワークアドレス部が同じかどうかを確認します。例えば、**Subnet Mask**（サブネットマスク）が、「**255.255.255.0**」の場合、右端の各機種のアドレスだけが違う状態が正常な状態です。

**Subnet Mask**（サブネットマスク）は、**IP Address**（**IP** アドレス）に被せるマスクと考えてください。下図の例では、**Subnet Mask**（サブネットマスク）の「**255**」にかかる部分がネットワークアドレス部、「**0**」にかかる部分がホストアドレス部と呼ばれ、各機器のアドレスになります。

例）**IP** アドレスが「**192.168.100.250**」の場合

ネットワークアドレス部　ホストアドレス部

IPアドレス　192.168.100.250
サブネットマスク　255.255.255.0

| | |
|---|---|
| IP アドレス | あるパソコンは 192.168.100.202、ほかのパソコンには 192.168.100.203、本製品には 192.168.100.250 のように、サブネットマスクの「0」にかかる部分の数値を 1 ～ 254 の間で設定してください。 |
| サブネットマスク | 通常は、255.255.255.0 であれば問題ありません。プリンターを使用するすべてのパソコンで同じ値にしてください。 |

- 正常な状態なら・・・

**IP** アドレスに関しては問題ありません。次の確認へ進んでください。

- 正常な状態でないなら・・・

**IP** アドレスが重複しないように設定し直してください。

例）パソコン側の **IP** アドレス　：**192.168.100.202**
　　本製品側の **IP** アドレス　　：**192.168.100.250**

⇒「IP アドレス」P.5-2

## ルーターやスイッチングハブの電源を入れなおす

頻繁に接続しなおしたり、接続している製品の IP アドレスの変更を繰り返し行った直後には、IP アドレス設定に誤りがなくても正常に動作しない場合があります。ルーターやハブの再起動（電源の入れなおし）をしてください。

# 第 11 章
# 付録

# 第 11 章 付録

## 用語集

### ● ADSL

Asymmetric Digital Subscriber Line の略。銅線の一般加入者電話（アナログ）回線を利用して、数 M ～数＋ Mbps の高速データ通信を可能にする通信方式です。

### ● APIPA

Automatic Private IP Addressing の略。IP アドレスの自動的な割り当て管理機能です。本製品では最初に自身のシステムに割り当てる IP アドレスを「169.254.1.0 ～ 169.254.254.255」の範囲からランダムに 1 つ選びます。そして、ARP 要求をネットワークにブロードキャストすることによって、その IP アドレスがほかのシステムで利用されていないかどうかを確認します。もしほかのシステムから ARP の応答が返ってくれば、その IP アドレスは使用中であるとみなし、別の IP アドレスで再試行します。このようにして未使用の IP アドレスを見つけ、自身のシステムに割り当てることによって、IP アドレスが重複しないことを保障します。

### ● ARP

Address Resolution Protocol の略。IP アドレスから MAC アドレス（イーサネットアドレス）を求めるためのプロトコルです。

### ● BOOTP

BOOTstrap Protocol の略。ハードディスクを搭載しないディスクレスクライアントシステムが、ネットワークアクセスを行うための IP アドレスやサーバーアドレス、起動用プログラムのロード先などを見つけだし、システムを起動できるようにすることを目的として開発された UDP/IP 上のプロトコルです。BOOTP を利用すれば、ネットワーククライアントの IP アドレスやノード名、ドメイン名、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイアドレス、DNS サーバーアドレスなどの情報を、クライアントの起動時に動的に割り当てられるようになります。TCP/IP ネットワークでは、各クライアントごとにこれらのネットワーク情報を設定する必要がありますが、BOOTP を利用すれば、クライアントの管理をサーバー側で集中的に行えるようになります。そのあと、一部を改良された DHCP が開発され、広く利用されるようになっています。

### ● DHCP

Dynamic Host Configuration Protocol の略。DHCP は、IP アドレスやサーバーアドレスなどの設定ファイルを起動時に読み込めるように開発された BOOTP（BOOTstrap Protocol）をベースとする上位互換規格です。

BOOTP は、クライアントの IP アドレスやノード名などをあらかじめ決定しておく必要がありましたが、DHCP では、クライアントがネットワークに参加するためのすべてのパラメーター（IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレス、ドメイン名など）を自動的に割り当てることができます。サービスを実行するにはサーバーもしくは、その機能を有するルーターが必要です。

### ● DNS

Domain Name System の略。Domain Name System という体系で命名されたホスト名（ドメイン名）から IP アドレスを調べるためのサービスです。ネットワーク上の資源を管理・検索するためのシステムです。インターネットの IP アドレスの名前の解決に広く利用されています。

### ● FTTH

Fiber To The Home の略。電話局から各家庭までの加入者線を結ぶアクセス網を光ファイバー化し、高速な通信環境を構築する計画のことを指します。

光ファイバーを使用すると、高速なインターネット接続や格安なひかり電話サービスを利用することができます。

### ISDN
Integrated Services Digital Network の略。「総合デジタル通信網」と呼ばれるサービス体系の総称です。

### LAN
Local Area Network の略。同一フロア、同一のビル内などにあるパソコン同士を、Ethernet などの方法で接続したネットワークのことを指し、閉鎖されたネットワークという位置付けがあります。

### MAC アドレス（イーサネットアドレス）
Media Access Control の略。OSI 参照モデルのデータリンク層で定義されるインターフェースカードのアドレス。機器内部に記憶されているので、ユーザーが変更することはできません。

### mDNS（multicast DNS）
DNS サーバーが存在しないような小規模なローカルエリアネットワーク環境においても、クライアントコンピューターがネットワーク上に存在する機器を名前で検索して利用できるようにする機能です。Apple Mac OS X の簡易ネットワーク設定機能などで使われています。

### ping
Packet InterNetwork Groper の略。相手先ホストへの到達可能性を調べるコマンドです。

### RARP
Reverse Address Resolution Protocol の略。TCP/IP ネットワークにおいて、MAC アドレス（イーサネットアドレス）から IP アドレスを求めるのに使われるプロトコルです。

### SOHO
Small Office / Home Office の略。小人数のオフィスや、家庭で仕事をする個人事業者を指します。大企業と対照的に使用されることが多いようです。

### TCP/IP
Transmission Control Protocol / Internet Protocol の略。インターネットで使用されているプロトコル、通信ソフト（アプリケーション）を特定して通信路を確立するプロトコル（TCP）と、通信経路（IP）から構成されています。OSI 参照モデルでは TCP はレイヤー 4、IP はレイヤー 3 に対応しています。

### WINS
Windows® Internet Name Service の略。Windows® 環境で、ネームサーバーを呼び出すためのサービスです。サービスを実行するにはサーバーが必要です。

### WWW
World Wide Web の略。インターネットでの情報検索システム、サービスシステムのひとつです。

### カテゴリー
LAN ケーブルの品質を指します。カテゴリー 5 は 100BASE-TX で利用されています。将来ギガビット・イーサネット（1000BASE-T）によるネットワークを想定する場合は、カテゴリー 6 を選択することが推奨されています。カテゴリー 5 で保証される周波数帯域は 100MHz までですが、カテゴリー 6 では 250MHz まで保証されています。また、LAN ケーブルは UTP ケーブルと呼ばれる場合もあり、UTP は Unshielded Twisted Pair の略で、「より線」のことを指しています。シールド付きのものは、STP ケーブルと呼ばれます。

### ●ゲートウェイアドレス
ネットワークとネットワークを接続する際の、外部のネットワークとの接点となるホストの IP アドレスを指します。別名「デフォルトルーター」や、単に「ルーター」と呼ばれる場合もあります。ルーターは、同一ネットワーク内に存在するホストである面と、ほかのネットワークにも同時に所属している両面を持っています。

### ●サブネットマスク
ネットワークを複数の物理ネットワークに分割するのに使用します。サブネットマスクはクラスごとに固定されています。

| | |
|---|---|
| クラス A | 255.000.000.000 |
| クラス B | 255.255.000.000 |
| クラス C | 255.255.255.000 |

ルーターの取扱説明書によっては、192.168.1.1 / 255.255.255.0 のことを、192.168.1.1/24 と表記している場合があります。255.255.255.0 を 2 進数に換算すると、先頭から 1 が 24 個並びます。"/24" とは、この事を指します。24bit 以外のマスク値を設定することも可能ですが、IP 管理が複雑になりますので、マスク値は 24bit でご利用することをお勧めします。なお、ローカルネットワークで利用する IP アドレスのことをプライベート IP アドレスと呼び、こちらもクラスがわかれています。

| | |
|---|---|
| クラス A | 010.000.000.000 ～ 010.255.255.255 |
| クラス B | 172.016.000.000 ～ 172.031.255.255 |
| クラス C | 192.168.000.000 ～ 192.168.255.255 |

### ●スイッチング・ハブ
スイッチング機能を持つハブ（集線装置）。パケットをその宛先に応じて振り分け、ネットワークトラフィックを局所化して、ネットワークの全体的な通信バンド幅を増やすことができるのが特徴です。10BASE-T や 100BASE-TX などのネットワークでは、各ネットワーク機器同士をハブで相互に接続していますが、Ethernet の通信方式の関係上、ノード数が増えると有効な帯域幅が急速に飽和するという特性を持っています。そこで、実際に通信をするポート同士だけを直結して通信を行い、それ以外のポートへは流れないようにするスイッチング技術が開発されました。これを実装したハブをスイッチング・ハブといいます。

### ●ノード
node。ネットワークに接続されているコンピューターなどの機器を指します。「ノード名」と「ホスト名」は同じ意味です。

### ●ルーター
ネットワーク間（LAN と LAN、LAN と WAN）の接続を行うネットワーク機器の一つです。ルーターはインターネット接続されたアドレスを変換し、LAN 内からアクセスできるようにしたり、LAN 内のサーバーを指定したポートを通じて外部に公開したりする NAT（アドレス変換）の機能があります。

## 無線 LAN に関する用語

### IEEE802.11b 及び IEEE802.11g
IEEE（米国電気電子学会）で定めた無線 LAN 規格で、IEEE802.11b は最大 11M ビット / 秒での通信が可能です。IEEE802.11g は IEEE802.11b の上位互換であり、更に高速な最大 54M ビット / 秒での通信が可能です。本製品の無線 LAN 機能は IEEE802.11b 及び IEEE802.11g の両方の規格に対応しています。

### AES
米国商務省標準技術局が定めた次世代標準暗号化方式のことです。
IEEE802.11i の暗号化方式の一つに採用されています。

### AOSS™
AirStation One-Touch Secure System の略。バッファロー社の無線 LAN アクセスポイント、エアーステーションシリーズに搭載されている機能で、接続設定とセキュリティー設定が簡単に行えます。

### ASCII
American Standard Code for Information Interchange の略。アメリカ規格協会が定めた情報交換用の文字や記号を数値表現したものです。例えば ASCII コードの「41」はアルファベットの「A」を表します。

### HEX
HEXADECIMAL の略。数字の 0 ～ 9 及びアルファベットの A ～ F を使用する 16 進数表示です。

### MAC アドレスフィルタリング
無線 LAN アクセスポイントに MAC アドレスを登録することにより、許可された無線 LAN 端末以外は接続できなくなります。

### SSID
Service Set Identifier の略。ネットワーク名とも呼ばれる SSID は、無線 LAN をほかの無線 LAN と区別するネットワークの識別子のことで、無線 LAN をグループ化するために用いられます。通常は無線 LAN アクセスポイントから発信されるビーコン等のパケットに含まれますが、ネットワークによっては、セキュリティー強化の為に SSID を表示しないようにする場合もあります。（SSID の隠ぺい）

### TKIP
Temporal Key Integrity Protocol の略。WEP の後継にあたる暗号化の規格で、暗号化方式は WEP と同じ RC4 を利用しています。
TKIP は一定時間ごと、または一定パケット量ごとにネットワークキーが更新されるため WEP キーによる暗号化よりも高いセキュリティーになります。

### WEP
Wired Equivalent Privacy の略。IEEE802.11 で標準化されている暗号化方式です。無線 LAN アクセスポイントやクライアントで共通のネットワークキー（WEP キー）を設定して通信の暗号化を行います。設定したネットワークキーが一致しない限り暗号化されたデータを解読することができません。

### WPA-PSK
無線 LAN の業界団体 Wi-Fi Alliance® が提唱する WPA™（Wi-Fi Protected Access®）の Personal モードです。WPA-PSK は、無線 LAN で使用される暗号化技術を用いた認証方式の一つであり、TKIP または AES 暗号化を使用した PSK（事前共有キー）による認証を行います。

## WPA2-PSK
次世代標準暗号化方式の「AES」を使用した強力な暗号技術を用いた承認方式の一つであり、AES ネットワークキーを使用した PSK（事前共有キー）による認証を行います。
WPA2-PSK 対応の無線 LAN 端末であれば WPA-PSK 互換モードにより、従来から使用されている WPA 対応機器との通信もできます。

## WPS
Wi-Fi Protected Setup™ の略。Wi-Fi Alliance® が考案した、簡単に無線接続設定ができる規格です。無線 LAN アクセスポイントと無線接続を行いたい機器が WPS に対応していれば、セットアップボタンを押すだけで設定が完了して接続できるようになります。プッシュボタン方式以外には、PIN（Personal Identification Number）と呼ばれる機器固有の番号を入力・登録する PIN コード方式があります。PIN コード方式は主にパソコン向けであり、プッシュボタン方式はゲーム機やプリンターなどのように入力インターフェースを持たない機器向けの仕様です。

## アドホック（Ad-hoc）通信
無線 LAN アクセスポイントを経由しないで、直接それぞれの無線 LAN 端末間で通信するネットワークです。このタイプのネットワークは、アドホックモード、またはピア・ツー・ピア・ネットワークとも呼ばれています。

## インフラストラクチャ（Infrastructure）通信
無線 LAN アクセスポイントを経由して、それぞれの無線 LAN 端末が通信するネットワークです。インフラストラクチャモードとも呼ばれています。

## セキュリティー（Security）
無線 LAN では電波の届く範囲内であれば自由にそのネットワークへ接続することが可能になります。従って、悪意を持った第三者に通信内容を盗聴されたり、無断でネットワークに侵入されて個人情報の取り出しやデータの改ざん、システムの破壊などの行為を許さないために暗号化などの安全保護を行うことを推奨します。この安全保護のことをセキュリティーといいます。

## チャンネル（Channel）
無線 LAN では通信のためにチャンネルが使われます。それぞれのチャンネルは予め決められたそれぞれ異なる周波数帯域を持っています。一つの無線 LAN 内のすべての無線 LAN 端末は、同じチャンネルを使う必要があります。

## ネットワーク認証
無線 LAN で使われる認証方式の総称です。本製品がサポートしている認証方式としては、オープンシステム認証、共有キー認証、WPA/WPA2-PSK などがあります。

## 信号強度
無線 LAN 端末が無線 LAN アクセスポイント、またはほかの無線 LAN 端末から受信する電波の強さのことです。

## 無線 LAN アクセスポイント（アクセスポイント）
無線 LAN アクセスポイントは無線 LAN ルーターとも言われています。個々の無線 LAN 端末は、ネットワークの中心にある無線 LAN アクセスポイントを介して通信します。また、無線 LAN アクセスポイントはセキュリティー管理も行っています。

# ネットワークの仕様

## 有線 LAN

| 項目 | 内容 | |
|---|---|---|
| ネットワーク | 10/100 BASE-TX | |
| プロトコル | IPv4 | ARP, RARP, BOOTP, DHCP, APIPA(Auto IP), WINS/Net-BIOS name resolution, DNS Resolver, mDNS, LLMNR responder, LPR/LPD, Custom Raw Port/Port9100, FTP Client and Server, SNMPv1, TFTP server, SMTP Client, APOP, POP before SMTP, SMTP-AUTH, ICMP, Web Services (Print), LLTD responder, CIFS Client |
| | IPv6 | NDP, RA, LPR/LPD, Custom Raw Port/Port9100, mDNS, FTP Server, SNMPv1, TFTP, Scanner Port, LLTD responder, Web Services (Print), SMTP Client, POP before SMTP, SMTP-AUTH, POP3, APOP, FTP, CIFS Client |

## 無線 LAN

| 項目 | 内容 | |
|---|---|---|
| ネットワーク | IEEE802.11b/g/n ワイヤレス | |
| ネットワークのセキュリティー | SSID (32 chr), WEP 64/128bit, WPA-PSK(TKIP:AES), WPA2-PSK(AES) | |
| プロトコル | IPv4 | ARP, RARP, BOOTP, DHCP, APIPA(Auto IP), WINS/Net-BIOS name resolution, DNS Resolver, mDNS, LLMNR responder, LPR/LPD, Custom Raw Port/Port9100, FTP Client and Server, SNMPv1, TFTP server, SMTP Client, APOP, POP before SMTP, SMTP-AUTH, ICMP, Web Services (Print), LLTD responder, CIFS Client |
| | IPv6 | NDP, RA, LPR/LPD, Custom Raw Port/Port9100, mDNS, FTP Server, SNMPv1, TFTP, Scanner Port, LLTD responder, Web Services (Print), SMTP Client, POP before SMTP, SMTP-AUTH, POP3, APOP, FTP, CIFS Client |

# 索　引

## め



## ゆ



## り